

「まちづくりアイデアコンペin東静岡」実施報告

概要

目的

(仮称) 静岡市アリーナ(計画中)を核とした「東静岡地区まちづくり基本構想」の作成にあたり、まちづくりに対する幅広い方々の多様なアイデアを提案していただくことを目的としてコンペを実施しました。

テーマ

“「新たな文化・スポーツの拠点づくり」と「快適で住みやすい住環境づくり」”
～最先端の文化・スポーツ・国際交流等による新たな交流・滞在と、安心して住み続けられる住環境が共存する、新時代のまちづくり～

募集部門

以下の2部門を設定し、提案を募集しました。

都市デザイン部門

主な対象者を、建築・まちづくりの専門家やそれらを専攻する学生とし、都市の将来像やその実現に向けた方策・プロセスについて、提案を募集しました。

まちを楽しむ部門

主な対象者を、地域でまちづくり活動をしている人や幅広い市民とし、広場・公園・街路等の公共的空間を活用して、新たな魅力や豊かな生活を生み出す活動のアイデアについて、提案を募集しました。

スケジュール

事前登録

令和6年7月26日(金)から
令和6年9月27日(金)まで

説明会

令和6年8月22日(木)
静岡市役所にて

提出受付

令和6年9月30日(金)から
令和6年10月31日(木)まで

1次審査

令和6年11月中旬(非公開)

最終審査

令和6年12月8日(金)
グランシップにて

最終審査では、プレゼンテーション・審査・表彰式を一般公開し、約140人が来場されました！

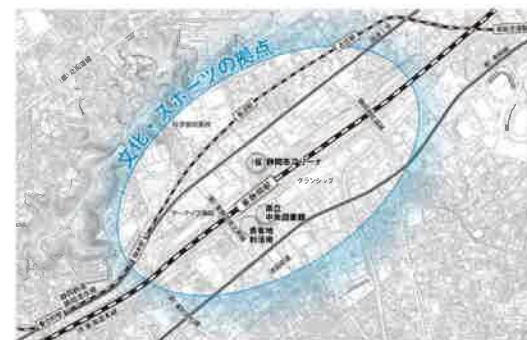


最終審査の様子

対象区域

提案の対象は、右記の「文化・スポーツの拠点」のエリアを中心としました。

このエリアに限らず周辺の主要な施設や資源等との連携など、東静岡地区との連携によりまち全体へ波及効果のある提案も可としました。



対象区域案内図

審査委員

遠藤 新	工学院大学 建築学部 まちづくり学科 教授	長尾 亜子	静岡理科大学 理工学科 建築学科 準教授	小嶋 文	埼玉大学 理工学研究科 準教授
西 美有紀	(一社) 草薙カルテッド (都市再生推進法人)	中村 直保	静岡市自治会連合会 会長	吉田 信博	静岡市 副市長

結果

令和6年11月中旬に実施された1次審査にて、最終審査に進む作品が選定されました。さらに12月8日(金)に開催した最終審査により、以下の各受賞作品が決定しました！

● 都市デザイン部門

作品名	所属等	氏名	参照
最優秀賞			
LIFE Streaming	(株)竹中工務店	小南 嘉久 (他3名)	4
優秀賞			
東静岡「緑と水が織りなす新しい東海道」 子育て世代が集う、持続可能な理想都市 -a foundation stone of an exemplary city-	デザインオフィス 創造舎	山梨 洋靖 (他2名)	5
入賞			
CONNECT PARTS CITY “HIGASHI SHIZUOKA”	東日本旅客鉄道(株)	青木 麻里子 (他3名)	6
「かいゆう」のまち	(株)アークポイント	吉田 敦 (他4人)	7
青春を育むまち 小さな活動を耕し、世代を超えて青春するまち	日本工営都市空間(株)	吉野 良佑 (他2名)	8
WEAVING NETWORK -東静岡の流れと変化を受け止める編み目-	Research + Design School in 静岡	高田 彩実 (他3名)	9
ヒガシズ 際立つ！ ～際立ちをきっかけに、人々が生き活きとしはじめる～	大成建設(株)	鈴木 隆博 (他6名)	10
Living in New Society	(株)アール・アイ・エー	松井 峻 (他3名)	11
まち まるごとアリーナ ～アリーナに頼りすぎない新たな副都心のつくりかた～	信州大学大学院	吉武 駿 (他1名)	12
マッシュアップ リング -ヒューマンスケールデザインによる”ヒガシズ文化”の形成-	(株)地域計画建築研究所	増見 康平 (他4名)	13

● まちを楽しむ部門

作品名	所属等	氏名	参照
審査委員特別賞・入賞			
みんなで紡ぐコミュニティガーデンとサイクリングロード	設備設計	松浦 智香	14
会場人気特別賞・入賞			
ノマド学習からはじまる若者の関わりしろ	静岡英和学院大学	青島 愛花	15
入賞			
マークイズ静岡が寄与する東静岡のまちづくり	三菱地所プロパティ マネジメント(株)	高田 光真 (他1名)	16
グランシップ前芝生公園を活用した「おかえりマルシェ」 の開催 ～東静岡駅付近の小学生へのアンケートをふまえて～	静岡県立大学	櫻井 莉子 (他1名)	17
安心してボール遊びのできる公園にするための工夫 ～公園×商業施設の実現に向けた実証実験～	静岡県立大学	小澤 由佳 (他1名)	18

● 学生未来賞※

※都市デザイン部門において、学生の努力や熱意を称えるため、審査委員が選定したもの

作品名	所属等	氏名	参照
enで紡ぐ東静岡	日本大学	吉田 明斗 (他7名)	19
てくてく東静岡	名城大学	松井 優星 (他2名)	20
Next東静岡 ～創る・継げる・結わえる街へ～	日本大学	藤崎 知輝 (他3名)	21
東静岡駅前巨大デッキ	静岡県立 科学技術高等学校	宮川 稔彬	22

応募件数

都市デザイン部門 28作品(96名)

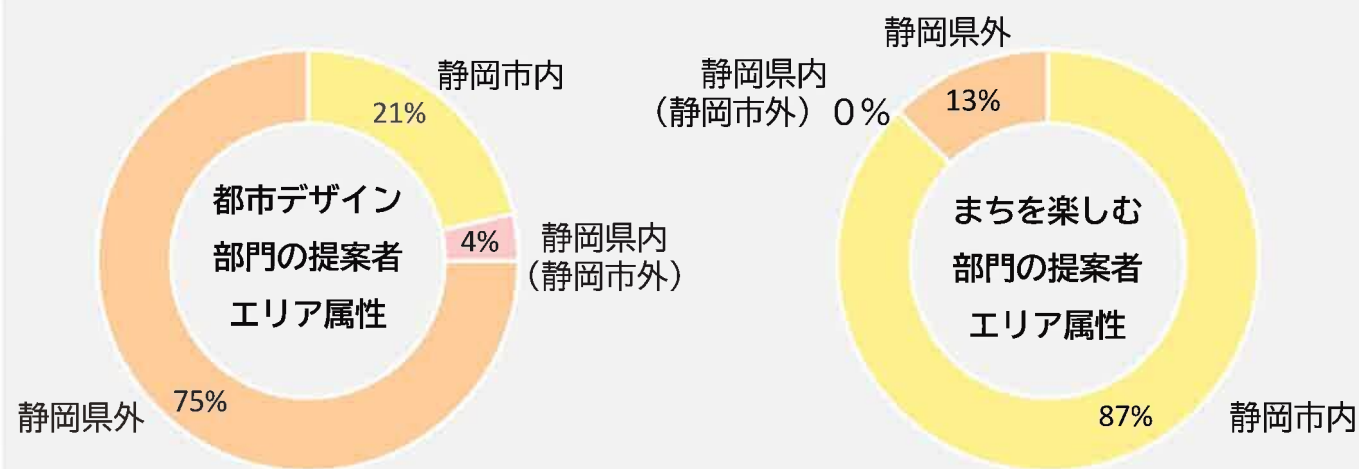
まちを楽しむ部門 8作品(11名)

総勢107名からの
ご提案がありました！

提案者の属性

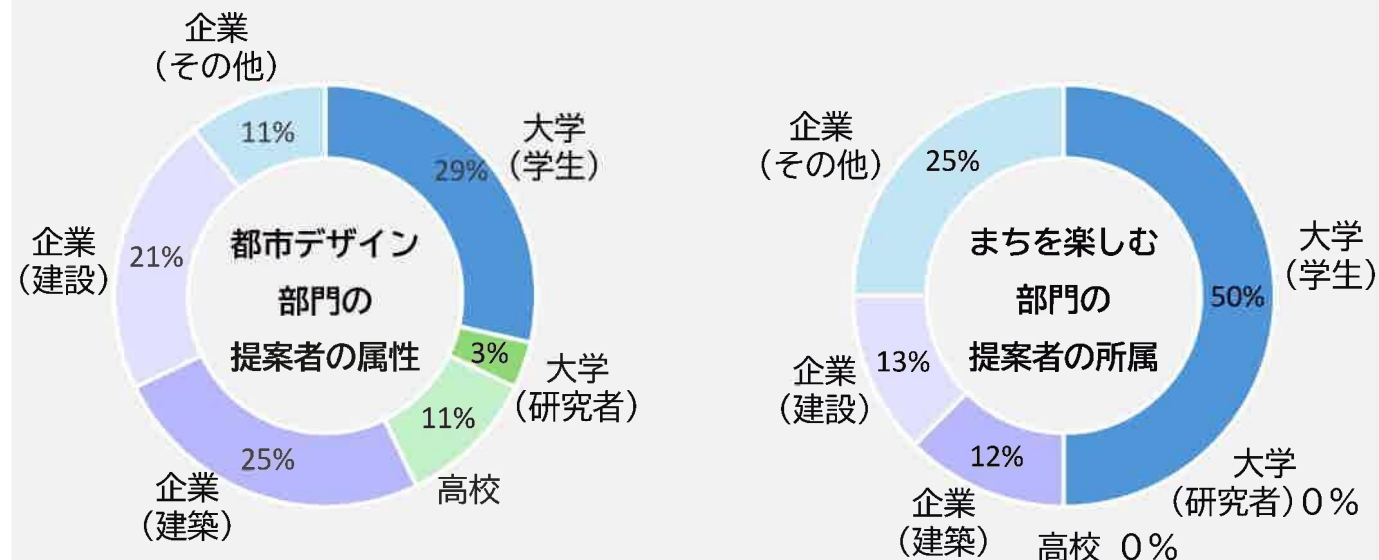
【提案者のエリア属性】

静岡市内にとどまらず、広い地域からの応募がありました。



【提案者の所属】

学生から社会人までの幅広い世代の方からの応募がありました。両部門の応募者を合わせると、15名もの学生がコンペに携わりました。



1次審査

東静岡の魅力を高める多数の応募作品の中から、最終審査に進む作品が決定！

各審査委員が推薦した作品に対する意見交換を行い、作品の評価すべきポイントを話し合いました。活発な議論を重ね、各部門の最終審査に進む作品を選出しました。また、「学生に将来もまちづくりに関わってほしい」「公の場(最終審査)で発表する経験を今後につなげてほしい」という東静岡地区まちづくり協議会委員や審査委員の想いから「学生未来賞」を追加し、4作品を選出しました。



最終審査

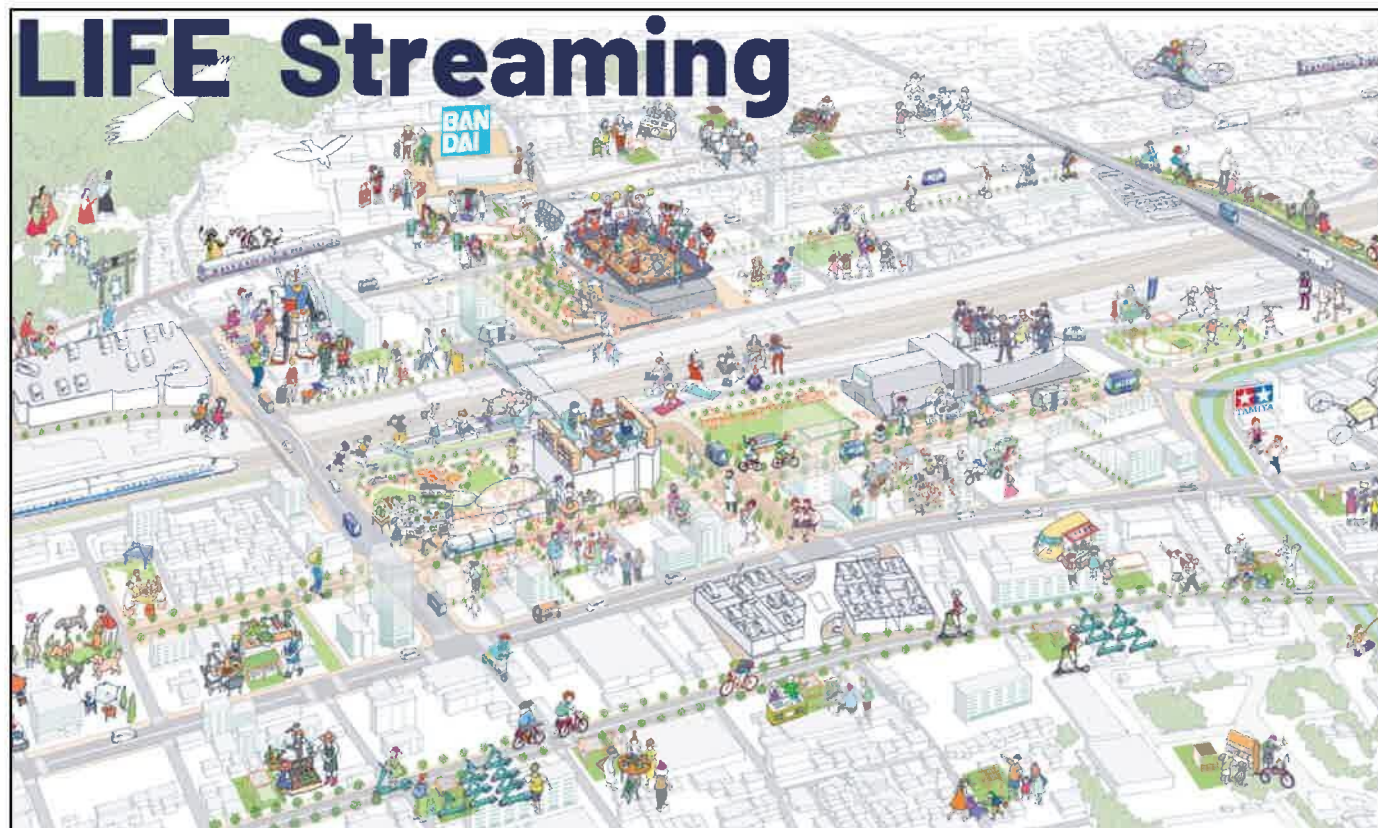
活発な議論を重ね、魅力的な作品の中から投票及び審査により各賞が決定！

最終審査は一般公開で多くの方に来場していただきました。オンライン投票を用いた会場人気特別賞の決定では、会場が一体となって東静岡地区のまちづくりを考えました。提案者と審査委員の質疑応答が活発に飛び交う審査となり、審査委員から複数の提案者に対して質問し、提案者が順番に答えていく場面もありました。こうした審査を経て、投票により、都市デザイン部門・まちを楽しむ部門の各賞を決定しました。



LIFE Streaming

(株) 竹中工務店 / 小南 嘉久 様・西松 直樹 様・松居 咲帆 様・遠藤 瑞帆 様



LIFE Streamingの概念図

新たなライフスタイルとコミュニティを 共創・共育する、市民主体のまちづくりを促す仕掛け

まちなかのパブリックスペースの中で、市民のスポーツや文化等の多様なアクティビティの流れを生み出す仕掛けにより、「非日常と日常を融合」「新しいライフスタイルとコミュニティを共創・共育」することを「LIFE Streaming」というタイトルで提案されました。また、その具体的な実現手法として4つのまちづくりの仕掛けが提案されました。

- ①Streaming PLOT (公共空間のり・デザイン) ②Streaming WALK (道路空間と交通体系のり・デザイン)
③Streaming LAB (地域価値創出のり・デザイン) ④Streaming PLATFORM (地域マネジメントのり・デザイン)

審査委員の講評 (要点)

「まちに合わせた魅力的なものをどのように生み出していくのか」という視点が考えられていました。まちづくりを促す仕掛けが4つの視点から考えられており、提案のバランスが良かったです。

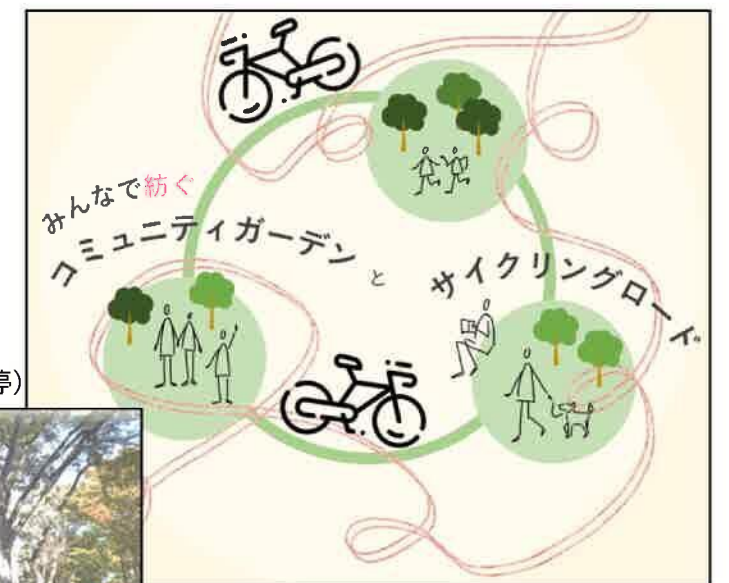
作品に対する想い (提案者インタビューより)

「非日常と日常」「建築と公共空間」「地区と周辺」が互いに寄り添うことが大切で、東静岡ではそれらの関係性をより充実させることが有効だと考え、まちにアクティビティの流れを生み出すことで新たなライフスタイルとコミュニティの循環を向上させることを考えました。また、持続可能な共創・共育を実現するためには、クラウドファンディングを介した市民のまちづくりへの参加やアクティビティを誘発するシステムとアプリケーションの導入が有効だと考えました。



みんなで紡ぐコミュニティガーデンとサイクリングロード

設備設計 / 松浦 智香 様



コミュニティガーデンのイメージ (県立美術館近くのバス停)



コミュニティガーデンとサイクリングロードの概念図

子どもたちが、夢や可能性を抱くきっかけとなるような空間の創出

「子どもたちが、夢や可能性を抱くことのできるきっかけとなるような空間」にするために、「コミュニティガーデン」を子どもたちが様々な世代と交流することができる場とし、「サイクリングロード」を子どもたちが自分自身で「選択」する経験と能力を培える場とすることが提案されました。また、近隣住民の主体的な参加や運営方法を確立してから地区外からの訪問者の利用を促すことで、包括的で不満のない発展を目指すことが提案されました。

審査委員の講評 (要点)

この地区で成功したモデルを横展開できるという観点で、「まちを楽しむ」ことの汎用性が高い提案でした。サイクリングロードでコミュニティをつなげるという発想が良かったです。

作品に対する想い (提案者インタビューより)

様々な世代と関わるのが難しい現代で、子どもが自分と異なる世代と交流する経験が、大人になったときの糧になってほしいという想いで提案しました。また、サイクリングロードを介してコミュニティガーデンでの活動を目にして興味をもってもらうことが、今後つくられる素敵な空間(新県立中央図書館のラボラトリーなど)の活用の誘導につながるのではないかと考えました。アリーナについても、建設の過程で住民が関わる機会をつくることで、新しい場に対する住民の愛着が生まれると思います。



LIFE Streaming



01 まちづくりの課題と視点

都市への一極集中や少子高齢化に伴う人口減少によるにぎわいの低下、災害時に助け合える地域コミュニティの弱体化など、地域社会の課題は多様化・複雑化している。また、テレワークやハイブリッド・ワーク、メタバースなどのデジタル技術の普及によりコミュニケーションが多様化し、若者をはじめとして、人々が実空間で活動し、交流する場としての都市のあり方が問われている。若者をはじめとして、人々が実空間で活動し、交流する場としての都市のあり方が問われている。若者をはじめとして、人々が実空間で活動し、交流する場としての都市のあり方が問われている。

課題①：非日常（スポーツ・文化）と日常（生活環境）との関係性が希薄
・都市部と居住者の活動が乖離し、交流の場が不足
・大規模なイベントやフェスティバルの開催
・区画整理事業内外の土地利用や道路整備の遅延



課題②：建物と外部空間（道路・公園・広場）との関係性が希薄
・建物の設計や利用が外部空間を活かさない
・外部空間に日常的なアクティビティや交流の場が少ない

課題③：周辺エリアへの2次交通アクセスが脆弱
・周辺の自然環境資源、観光コンテンツ、大学や病院を回遊連携する2次交通が弱い

課題④：まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点

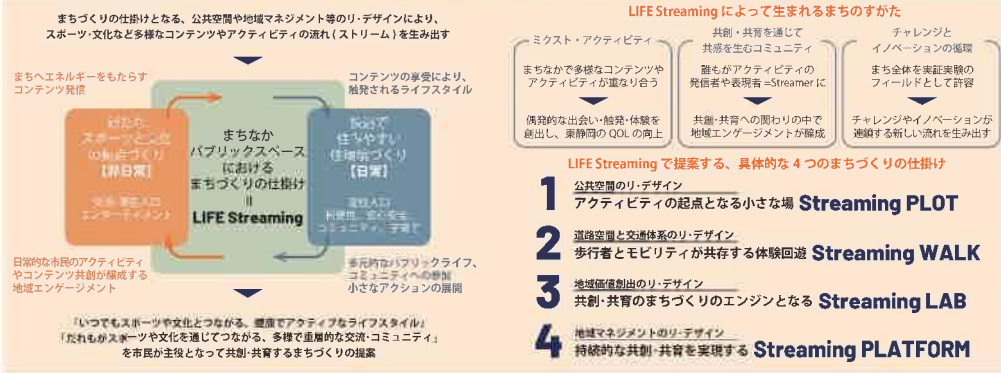
課題⑤：まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点

課題⑥：まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点

課題⑦：まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点

02 まちづくりコンセプト

“LIFE Streaming”
東静岡開発 新たなライフスタイルとコミュニティを共創・共育する 市民主体のまちづくりを促す仕掛け



まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点

まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点

まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点

まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点

まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点



まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点

まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点

まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点

まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点

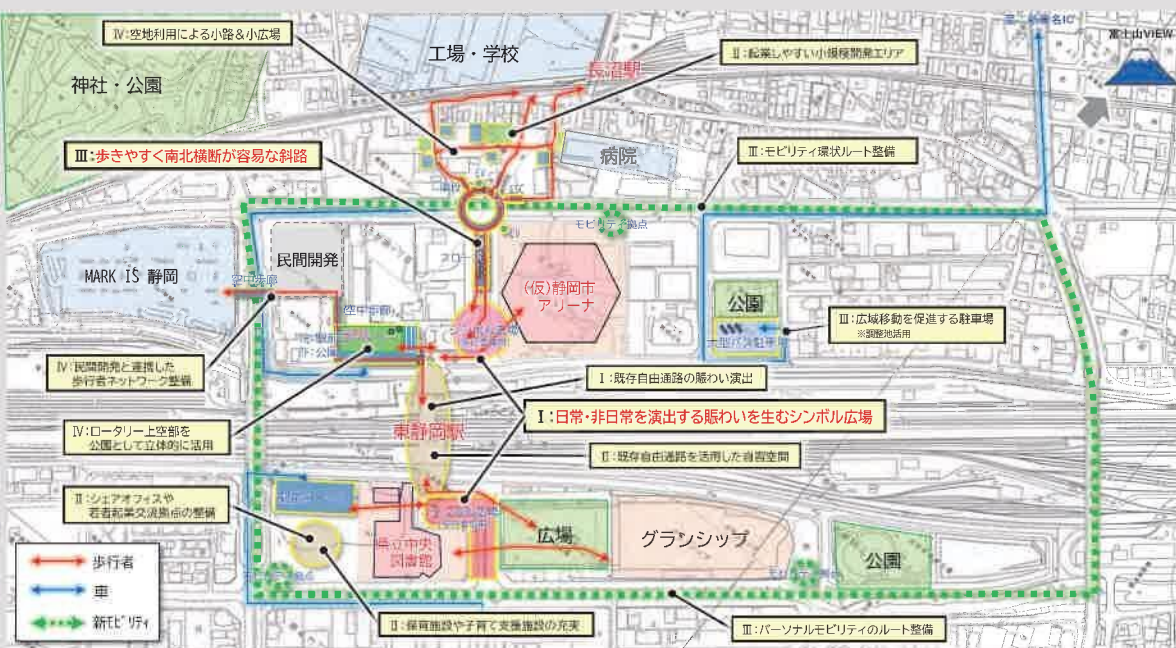
まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点
・まちづくりの課題と視点

CONNECT PARTS CITY "HIGASHI SHIZUOKA"

ASSIGNMENT



PROPOSAL DETAILS

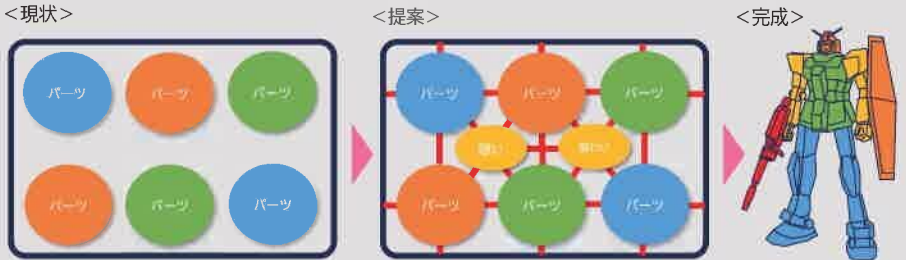
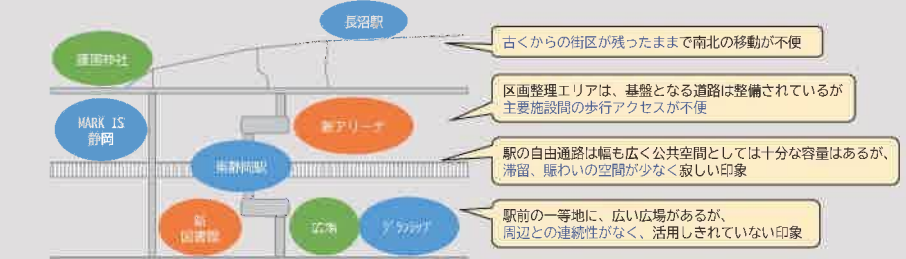


CONCEPT

東静岡地区は、土地区画整理事業、新駅・自由通路整備など、平成の約30年をかけて都市基盤の骨格が作り上げられてきましたが、この度のアリーナ計画や新県立図書館の整備を契機に社会構造の変化や時代のニーズを捉えた新たな街づくりが求められています。

今回、我々は「CONNECT PARTS CITY "HIGASHI SHIZUOKA"」とコンセプトを定めました。東静岡地区には、駅、グランシップ、新図書館（予定）、新アリーナ（予定）、商業施設といった様々な主要要素（＝parts）がありますが、幹線道路や旧街区に阻まれ、歩行者にとってはそれぞれがうまくつながっていない現状があると感じました。そこで、それぞれの主要要素（＝parts）を連続的、効果的につなぐ（＝connect）ことで、住みたく・訪れたい街にしたいと考えました。

またこのつなぐ（＝connect）というコンセプトは、物理的に要素間をつなぐだけでなく、賑わい等も創出することで、来街者と居住者をつなぐ、高齢者～若者～子供の世代間をつなぐ、歩きやすい・移動しやすい街とすることで周辺地域とネットワークが繋がることが意図して設定しました。



POINT I 文化・スポーツ

◆駅前歩行者中心のシンボル広場を整備し、

日常・非日常の様々なシーンにおいて賑わいを創出します

①：南北の駅前ロータリーを移転し歩行者専用の広場へ改修（樹木、噴水等を配置しシンボル性を演出、ベンチ、垂れるデッキ等を多く配置し滞留可能な空間とする）

②活用イメージ

・近所の方々の散歩コース途中の休憩スポット、天気の良い日は読書などの憩いの空間として活用

・北側：アリーナでのイベント開催時、多くの人が安全に移動できる空間として十分な広さを確保

・南側：図書館、グランシップと連携した文化交流イベント等における屋外展示空間として活用

（上野公園に近接・駅前広場整備）

駅前の広場を上部公園の緑地として移転、歩行者専用広場のロータリー化を行い歩行者の歩行者専用広場を整備

（北側駅 駅前広場整備）

従来のロータリー主体の駅前広場を改修し、様々なイベントの開催が可能な歩行者専用広場を整備

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

（北側駅 駅前広場整備）

◆東静岡駅の自由通路空間を活用し、

賑わい創出、地域情報の発信、地元企業との連携を図ります

①：滞留空間、イベント空間としての機能を付加し賑わい創出と改修

・イベント開催時に必要な有効職員は確保のうえ立上りとなる空間にベンチ等を配置

・賑わいを演出する造作を付加し滞留空間としても活用

・地元企業とタイアップし、大型プラモデルのミニチュア等を展示

・イベントスペースを設置し、アリーナでのゲーム開催日等で活用

②活用イメージ

・イベント開催時に必要な有効職員は確保のうえ立上りとなる空間にベンチ等を配置

・賑わいを演出する造作を付加し滞留空間としても活用

・地元企業とタイアップし、大型プラモデルのミニチュア等を展示

・イベントスペースを設置し、アリーナでのゲーム開催日等で活用

③活用イメージ

・イベント開催時に必要な有効職員は確保のうえ立上りとなる空間にベンチ等を配置

・賑わいを演出する造作を付加し滞留空間としても活用

・地元企業とタイアップし、大型プラモデルのミニチュア等を展示

・イベントスペースを設置し、アリーナでのゲーム開催日等で活用

④活用イメージ

・イベント開催時に必要な有効職員は確保のうえ立上りとなる空間にベンチ等を配置

・賑わいを演出する造作を付加し滞留空間としても活用

・地元企業とタイアップし、大型プラモデルのミニチュア等を展示

・イベントスペースを設置し、アリーナでのゲーム開催日等で活用

⑤活用イメージ

・イベント開催時に必要な有効職員は確保のうえ立上りとなる空間にベンチ等を配置

・賑わいを演出する造作を付加し滞留空間としても活用

・地元企業とタイアップし、大型プラモデルのミニチュア等を展示

・イベントスペースを設置し、アリーナでのゲーム開催日等で活用

⑥活用イメージ

・イベント開催時に必要な有効職員は確保のうえ立上りとなる空間にベンチ等を配置

・賑わいを演出する造作を付加し滞留空間としても活用

・地元企業とタイアップし、大型プラモデルのミニチュア等を展示

・イベントスペースを設置し、アリーナでのゲーム開催日等で活用

⑦活用イメージ

・イベント開催時に必要な有効職員は確保のうえ立上りとなる空間にベンチ等を配置

・賑わいを演出する造作を付加し滞留空間としても活用

・地元企業とタイアップし、大型プラモデルのミニチュア等を展示

・イベントスペースを設置し、アリーナでのゲーム開催日等で活用

⑧活用イメージ

・イベント開催時に必要な有効職員は確保のうえ立上りとなる空間にベンチ等を配置

・賑わいを演出する造作を付加し滞留空間としても活用

・地元企業とタイアップし、大型プラモデルのミニチュア等を展示

・イベントスペースを設置し、アリーナでのゲーム開催日等で活用

⑨活用イメージ

・イベント開催時に必要な有効職員は確保のうえ立上りとなる空間にベンチ等を配置

・賑わいを演出する造作を付加し滞留空間としても活用

・地元企業とタイアップし、大型プラモデルのミニチュア等を展示

・イベントスペースを設置し、アリーナでのゲーム開催日等で活用

⑩活用イメージ

・イベント開催時に必要な有効職員は確保のうえ立上りとなる空間にベンチ等を配置

POINT II 若者・子ども

◆子育てしやすい街をつくり、子育て世代の移住を促進します

①：南側の未利用街区エリアに、

保育施設・子育て支援施設・シェアオフィスの複合施設を新設

②活用イメージ

・南側の広場や北側の神社・公園を活用することで、自然の恵みの（ひびき）（例：森のようちえん）

・隣接する新図書館と連携することで、文化的・創造的な体験が得られる

・駅前という立地条件により、子育て世代の交通手段に柔軟な対応も可能

・子育て支援施設

・子育て世代の交流拠点を創出し、新たなコミュニティを醸成できる（シェアオフィス）

・隣接する保育園に子どもも受け、安心な環境で子育てができる（駅前という立地、通学から通園まで）（静岡駅から駅2分）

③活用イメージ

・南側の広場や北側の神社・公園を活用することで、自然の恵みの（ひびき）（例：森のようちえん）

・隣接する新図書館と連携することで、文化的・創造的な体験が得られる

・駅前という立地条件により、子育て世代の交通手段に柔軟な対応も可能

・子育て支援施設

・子育て世代の交流拠点を創出し、新たなコミュニティを醸成できる（シェアオフィス）

・隣接する保育園に子どもも受け、安心な環境で子育てができる（駅前という立地、通学から通園まで）（静岡駅から駅2分）

④活用イメージ

・南側の広場や北側の神社・公園を活用することで、自然の恵みの（ひびき）（例：森のようちえん）

・隣接する新図書館と連携することで、文化的・創造的な体験が得られる

・駅前という立地条件により、子育て世代の交通手段に柔軟な対応も可能

・子育て支援施設

・子育て世代の交流拠点を創出し、新たなコミュニティを醸成できる（シェアオフィス）

・隣接する保育園に子どもも受け、安心な環境で子育てができる（駅前という立地、通学から通園まで）（静岡駅から駅2分）

⑤活用イメージ

・南側の広場や北側の神社・公園を活用することで、自然の恵みの（ひびき）（例：森のようちえん）

・隣接する新図書館と連携することで、文化的・創造的な体験が得られる

・駅前という立地条件により、子育て世代の交通手段に柔軟な対応も可能

・子育て支援施設

・子育て世代の交流拠点を創出し、新たなコミュニティを醸成できる（シェアオフィス）

・隣接する保育園に子どもも受け、安心な環境で子育てができる（駅前という立地、通学から通園まで）（静岡駅から駅2分）

⑥活用イメージ

・南側の広場や北側の神社・公園を活用することで、自然の恵みの（ひびき）（例：森のようちえん）

・隣接する新図書館と連携することで、文化的・創造的な体験が得られる

・駅前という立地条件により、子育て世代の交通手段に柔軟な対応も可能

・子育て支援施設

・子育て世代の交流拠点を創出し、新たなコミュニティを醸成できる（シェアオフィス）

・隣接する保育園に子どもも受け、安心な環境で子育てができる（駅前という立地、通学から通園まで）（静岡駅から駅2分）

⑦活用イメージ

・南側の広場や北側の神社・公園を活用することで、自然の恵みの（ひびき）（例：森のようちえん）

・隣接する新図書館と連携することで、文化的・創造的な体験が得られる

・駅前という立地条件により、子育て世代の交通手段に柔軟な対応も可能

・子育て支援施設

・子育て世代の交流拠点を創出し、新たなコミュニティを醸成できる（シェアオフィス）

・隣接する保育園に子どもも受け、安心な環境で子育てができる（駅前という立地、通学から通園まで）（静岡駅から駅2分）

⑧活用イメージ

・南側の広場や北側の神社・公園を活用することで、自然の恵みの（ひびき）（例：森のようちえん）

・隣接する新図書館と連携することで、文化的・創造的な体験が得られる

◆学生が集いやすい空間を創出し、街に賑わいを創出します

①：既存自由通路を自習空間として活用

②：南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催（地域の学校等と連携）

③活用イメージ

・既存自由通路を自習空間として活用

・南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催（地域の学校等と連携）

④活用イメージ

・既存自由通路を自習空間として活用

・南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催（地域の学校等と連携）

⑤活用イメージ

・既存自由通路を自習空間として活用

・南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催（地域の学校等と連携）

⑥活用イメージ

・既存自由通路を自習空間として活用

・南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催（地域の学校等と連携）

⑦活用イメージ

・既存自由通路を自習空間として活用

・南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催（地域の学校等と連携）

⑧活用イメージ

・既存自由通路を自習空間として活用

・南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催（地域の学校等と連携）

⑨活用イメージ

・既存自由通路を自習空間として活用

・南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催（地域の学校等と連携）

⑩活用イメージ

・既存自由通路を自習空間として活用

・南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催（地域の学校等と連携）

⑪活用イメージ

・既存自由通路を自習空間として活用

・南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催（地域の学校等と連携）

⑫活用イメージ

・既存自由通路を自習空間として活用

・南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催（地域の学校等と連携）

⑬活用イメージ

・既存自由通路を自習空間として活用

・南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催（地域の学校等と連携）

⑭活用イメージ

・既存自由通路を自習空間として活用

・南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催（地域の学校等と連携）

⑮活用イメージ

・既存自由通路を自習空間として活用

・南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催（地域の学校等と連携）

⑯活用イメージ

・既存自由通路を自習空間として活用

・南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催（地域の学校等と連携）

⑰活用イメージ

・既存自由通路を自習空間として活用

・南北それぞれのシンボル広場で、ウェルビーイングイベントを開催（地域の学校等と連携）

⑱活用イメージ

・既存自由通路を自習空間として活用

POINT III 都市交通

◆東静岡駅と長沼駅の歩行者動線強化のため、

歩車分離と動線渡る緑の斜路を整備します

①：歩行者専用化した国道を渡るアプローチ

駅前のシンボル広場を起点とし、横や縦につながる斜路により国道1号線を越えることができる。目の前にはオアシスの山々が広がる。東静岡駅と長沼駅をゆるやかにつなぐ、歩行者の移動を促す。

②活用イメージ

・駅前のシンボル広場を起点とし、横や縦につながる斜路により国道1号線を越えることができる。目の前にはオアシスの山々が広がる。東静岡駅と長沼駅をゆるやかにつなぐ、歩行者の移動を促す。

③活用イメージ

・駅前のシンボル広場を起点とし、横や縦につながる斜路により国道1号線を越えることができる。目の前にはオアシスの山々が広がる。東静岡駅と長沼駅をゆるやかにつなぐ、歩行者の移動を促す。

④活用イメージ

・駅前のシンボル広場を起点とし、横や縦につながる斜路により国道1号線を越えることができる。目の前にはオアシスの山々が広がる。東静岡駅と長沼駅をゆるやかにつなぐ、歩行者の移動を促す。

⑤活用イメージ

・駅前のシンボル広場を起点とし、横や縦につながる斜路により国道1号線を越えることができる。目の前にはオアシスの山々が広がる。東静岡駅と長沼駅をゆるやかにつなぐ、歩行者の移動を促す。

⑥活用イメージ

・駅前のシンボル広場を起点とし、横や縦につながる斜路により国道1号線を越えることができる。目の前にはオアシスの山々が広がる。東静岡駅と長沼駅をゆるやかにつなぐ、歩行者の移動を促す。

⑦活用イメージ

・駅前のシンボル広場を起点とし、横や縦につながる斜路により国道1号線を越えることができる。目の前にはオアシスの山々が広がる。東静岡駅と長沼駅をゆるやかにつなぐ、歩行者の移動を促す。

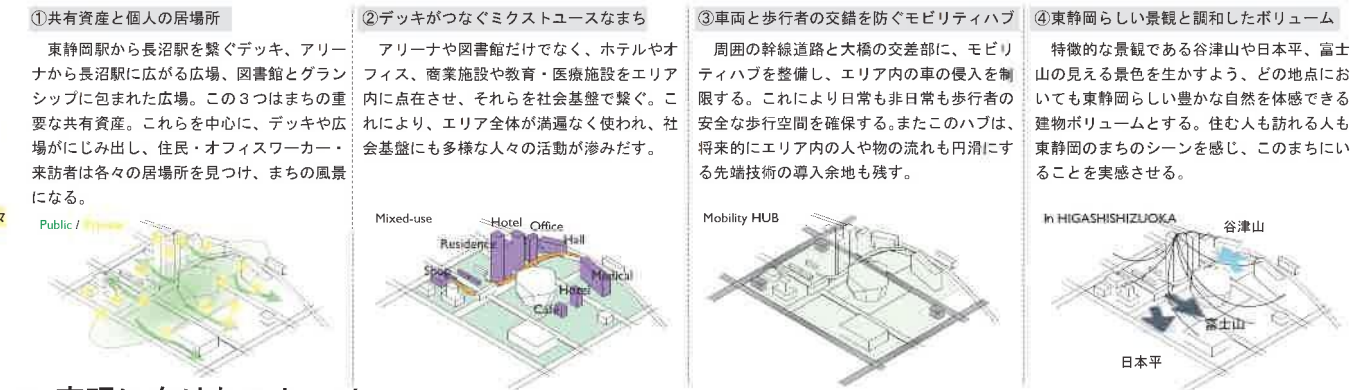
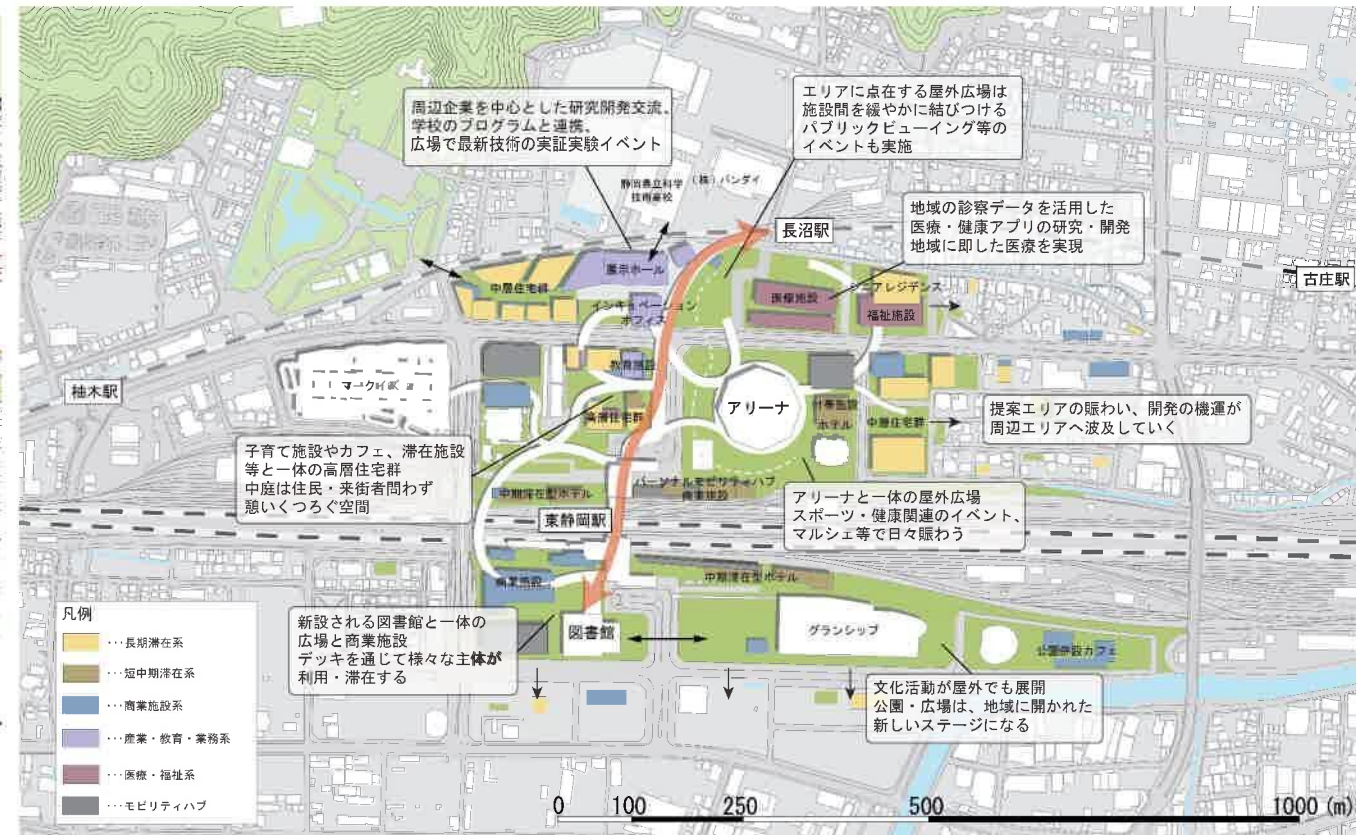
⑧活用イメージ

・駅前のシンボル広場を起点とし、横や縦につながる斜路により国道1号線を越えることができる。目の前

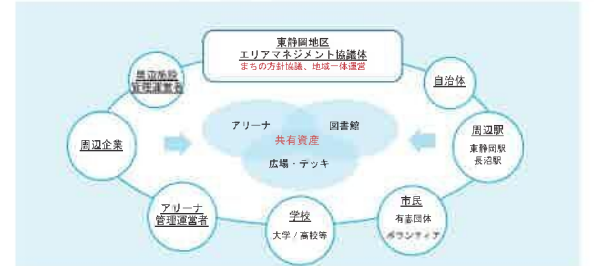
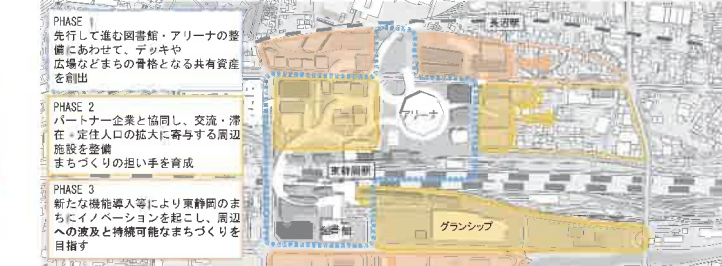
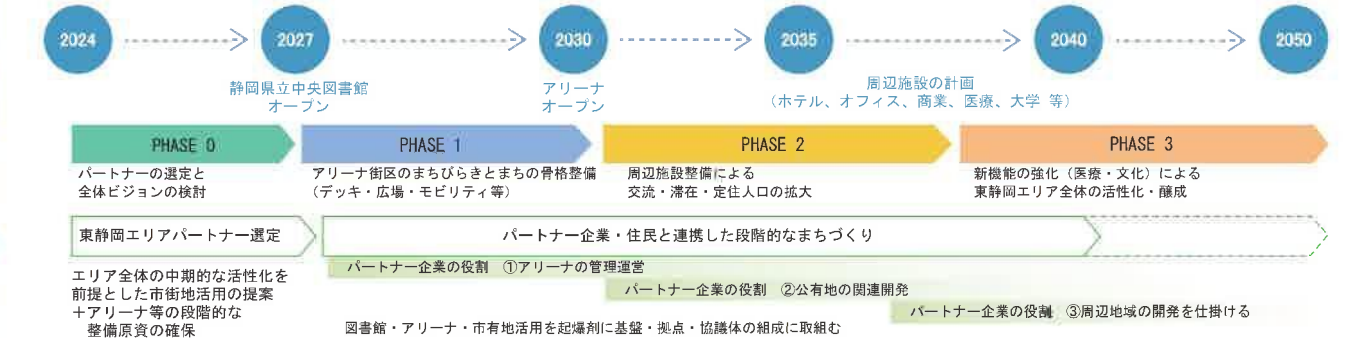
7

①②③④

※画像の作成にはAIを活用しています



多様な人々が交流し、豊かに暮らすまちの実現に向け、市と協同してまちづくりを推進する開発力・資金力等に優れたまちづくりパートナーを定める。図書館、アリーナの整備にあわせてデッキや屋外広場の整備を進めるとともに、まちづくりパートナーと協同して交流人口・定住人口の増加、それを受け止める十分な社会基盤、賑わいを創出する空間と仕組みの実現に向けた取組みを段階的に進める。また、各施設やまちの共有資産となる広場等を含めた管理運営を行う組織を組成し、住民や周辺企業も参画する一丸となった持続可能なまちづくりを実現する。



アリーナに頼りすぎない新たな副都心のつくりかた

市が令和5年に発表した試算の中で、**施設整備費の採算性は取れない**とされています。また、施設規模が大きすぎれば維持管理の採算性の見込みもあるとされています。また、周辺のコンパクト化、これはアリーナとの差別化は必須です。都市機能を充実させ便利に作りやすいうちづくりを進めるとともに、大都市とは異なる多様なまちの個性を生み出すことが重要です。そのためには、アリーナのような大きな施設を整備するだけでなく、まちなかに小な拠点を整備し、そこを結ぶ回遊性を高める必要があります。



下記の通り地質や地形が多様であり、開拓地と不適地が混在しています。また、静岡ならではの自然環境に加えて、気候は温暖で過ごしやすいという特色があります。

〈過去の地盤を移す地形〉

縄文時代には現在の麻機地域域まで深い入り江になっていた。また日本平の丘陵地が隆起し、その後海灣が消失し、現在の地形となりました。

— 古代東海道推定ライン

〈表層地質〉

表層地質が多様に分布しています。礫（透水層）と泥（不透水層）の境では湧水が発生し、地下水位の高いルトや砂層は液状化の危険性があります。

砂 泥 シルト 礫

〈地形〉

扇状地、三角洲、後背湿地などが展開しています。東静岡周辺は後背湿地が広がり、農家の過地ですが、水はけが悪く相対的に建築に向きません。

保全重要度：低 高

〈植生自然度〉

エリア周辺には、谷津山、庵原山地、麻機沼、日本平という豊かな自然が広がっています。青から赤になるにつれて植生の自然の重要性が高いです。

自然度：低 高

〈富士山頂からの可視領域〉

剣ヶ峰からの可視領域がエリア全体広がっています。約50kmの距離で、物などの遮り物がないければ富士山をのめるポテンシャルがあります。

可視領域

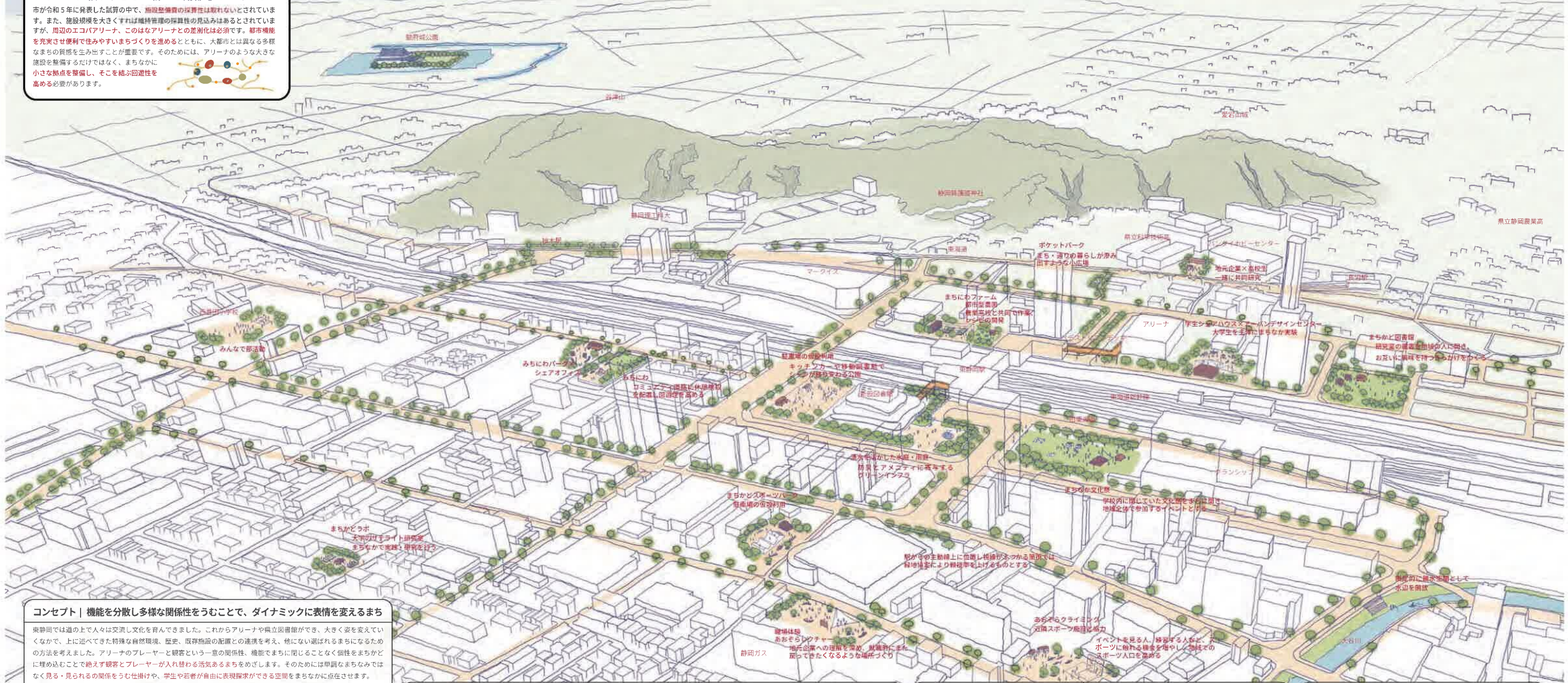
自然環境の形成過程に起因して、東部には**東西方向に伸びる古代東海道**を含めた交通軸が集積してきました。人が夢さ、出会い、文化を生んできた一方で、**水はけの悪い土地であり土地利用が進まず大規模な操車場があらわれた**。近年は、**大規模な開発が進み単調な都市構造・景観になっ**ております。

麻機掘と利用しづらい地質		あたらしい大きなまち
	七夕豪雨の浸水被害を受けた麻機の様子。 放水路や遊水地の建設によって開発が可能になった。	
出典：記念館「大谷」放水路		出典：グランシップHP

現代の日本の都市や集落は「**自然の姿**」と「**土地利用の姿**」の2つの軸で理解できると考えました。前述の時代における都市間競争を勝ち抜くためには、右記のいずれかの地域像に向けて地域らしさを磨いていく必要があります。対等地のポテンシャルや動向から**第4象限を目指すべき**と考えます。

「**静岡市の人口動態の現状**」

- ・移住者の転入人口が多い
- ・就学 / 就職による転出が多い → **転入を転出が上回る**
- ・就学 / 就職の転出は減らさない → U/I / ターンを増やす必要
- ・Uターンが多い → **外への人に魅力的**
- ・Iターンが少ない → **転出者の若者にとって魅力的でない**



泉岡岡では道の上で人々とは交流し文化を育んできました。これからアリーナや県立図書館が、大きく姿を変えていくなかで、上に述べてきた特殊な自然環境、歴史、既存施設の配置との連携を考え、他にない選ばれたまちになるための方針を考へます。アリーナのプレーヤーと観客という一意的関係性、機能もまちに閉じることなく個性をまろやかに生み出すことで絶えず観客とプレーヤーが入り替わる活気あるまちをめざします。そのためには単なるまちのみではなく、見る、見られるの関係をうまく掛け、**学生や若者が自由に表示表現ができる空間**をまちかに点でさせます。

[illegible]

本コンペのポイントを下記の通り整理しました。**周辺の大学や高校、他地域大学のまちづくりに関わる分野の研究室や研究センター**がまちの低層部分に挿入します。学生は現場の生のデータや声にアクセスができ、地域には様々な若者の姿が現れます。研究室以外にも**シェアオフィス**や**フリー利用者の宿泊**、**地域の飲食店や食堂**など、住に使うといった相乗効果を狙います。また、こうした「まちをどうする」の成果の発表会として「**まちなか文化祭**」を行います。広域的な集客イベントではなく、住民が地元のことを知り、**夢や希望を持つ機会**としてまちの非日常性を生みだしていきます。**長期的にはルールやガイドラインを作りおこなった実地学習を促進していく**。

時間軸	短時間的活用	視点① 若者・子ども A: 祝祭性の創出	まちに関する活動をまち全体を使ってお祝いする機会 住民が地域のことを理解し愛着を深める日 文化・文芸
	長期的日常	視点② 新たな価値づくり B: 界隈性の創出 視点③ 交通・歩きやすさ C: 回遊性の創出 視点④ 土地利用・空間づくり D: まちの土台・ルール作り	B: まちかどラボ ・ サテライトラボ ・ 学生シェアハウス ・ 食堂・飲食店 ・ 銭湯 / サウナ C: 水と緑のコリドー ・ 自転車道 ・ デッキ ・ 病院 ・ 一階レベルの機能誘導 ・ 公園空間の整備 ・ 沿道の緑化 / 緑地協定

用途地域は駅を中心に商業、工業地域、住居地域と広がりますが現況の土地利用も概ね同様です。旧街道や線路による東西の軸が強く、北側にはアリーナやマークイズなどのにぎわい、交流関連の施設、南側は県立図書館や高層マンションが並び、教育や文化の拠点が並びます。

これらの目的地が駅の南北で偏りがないよう、機能を南北で分散させることで、様々な目的を持つ人々の様々な移動が生れ、そこまよりの交流が生まれます。方針A～Cとの関係性を図示します。

新たに開発するまちは、人が定着し風景にできるのに時間を要します。東静岡エリアには新住民への呼び水として県下の学生や社会のまちづくりに関わる研究家を誘致し、活用のフェーズを各課題プロジェクトと連携させます。

図解：まちのランドスケープ2006

● 愛着を醸成するのは、多様な目的とまちへの関わり

愛着を醸成するのは、多様な目的を許容し、無目的でも滞在できる機能・空間(都市構造)とまちへの関心、関わりを作るコミュニティである。

静岡県が都市間競争で生き残るため、都心回廊の受け皿となるエリアに愛着を感じるまちな形成を目指す。

	商業系	住居系	文化系
文芸系	音楽 AOI 神楽科学館	(アトリーナ設計予定地) 図書館、クラフツアップ	音楽大学 県立大宇
施設	坂屋屋、伊勢丹 パルク	マークイズ	清水駅前 競輪場商店街
利用	マンション	マンション・住宅 多	
業種	金融		静岡

提案の方針

- Point① 移動円滑化に資する交通機能の強化
- Point② 多様な人々がたのびたい魅力ある環境づくり
- Point③ ヒューマンスケールをつくる土地利用
- Point④ まちづくりの意識醸成
- Point⑤ 交流促進で市民・企業・来訪者等の居場所づくり

代表性 多样性 应用容易性

[illegible]

1999 グランシップ開業

●アンカーにモビリティハブの機能を付加（モビリティリンクとなる）	●マッシュアップゾーン・モビリティリンクの拡充と充実
ネットフォームの構築（コミュニティ形成）	●エリアマネジメントの実証
	●エリアマネジメント

「時代の子どもが大人になり、次世代のプロジェクト展開を想定」

1999 グランシップ開業

「新たな文化・スポーツの拠点づくり」
「快適で住みよい住環境づくり」につながる

“ヒガシズ文化”の形成



東静岡の土地が紡いできた歴史を、
新しい時代へと紡いでいく
コミュニティガーデンと**サイクリングロード**

南口の新県立中央図書館と、北口のアリーナの完成に伴い、
東静岡地域外や県外からの訪問者の増加が予想されます。
近隣住民のみではなく、住民以外の訪問者にとっても親しみやすく、
気軽に参加・利用することができる、空間を提案します。

コミュニティガーデン

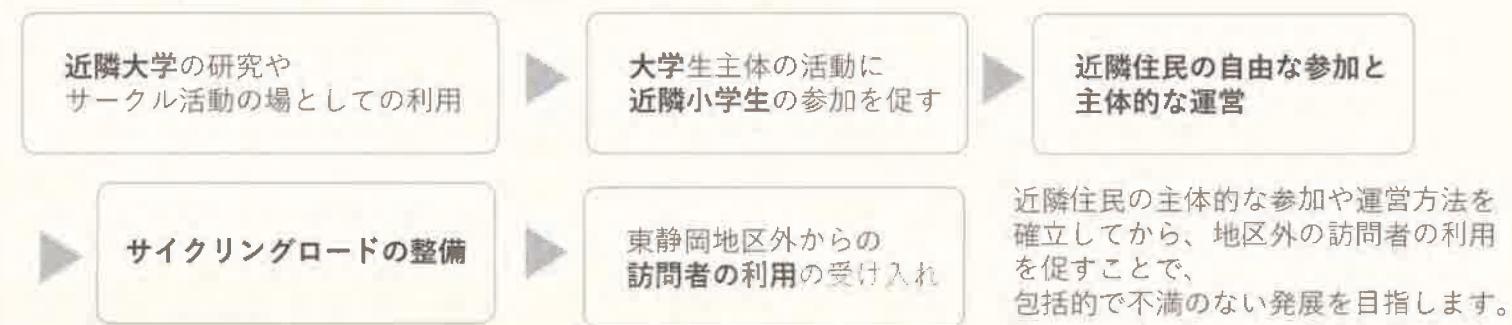
住民主体で、発展・運営・管理を行うことで行政任せではない、「主体性のあるコミュニティガーデン」を目指します。低未利用空地や既存公園の一部を活用し、各コミュニティガーデンごとに、特定の用途を定めずに、ガーデン利用者が主体となって運営方針を決めていくことで、それぞれのコミュニティガーデンごとに、独自の特色やアイデンティティをもたらすことのできる空間を提案します。

サイクリングロード

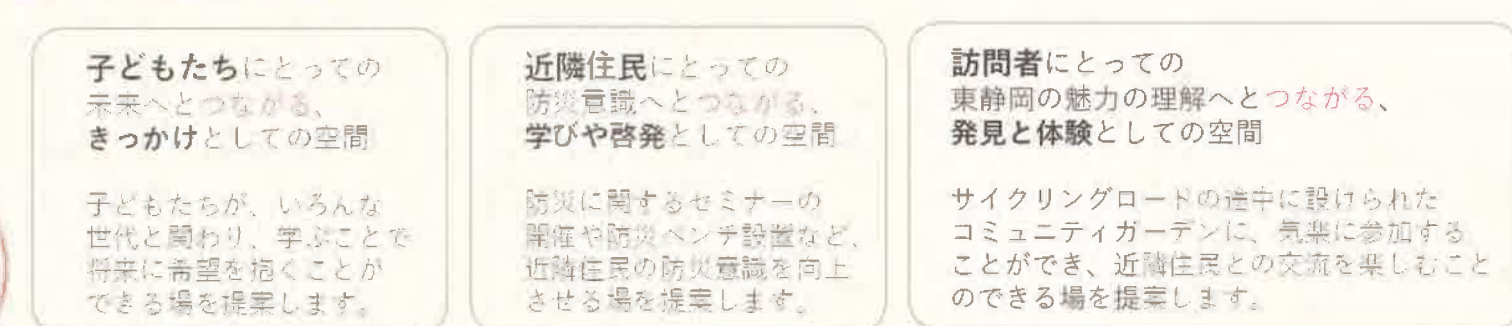
東静岡が目指す、「場の力を活かした」まちの活性化を助長することを目指します。空き地や既存公園内に設けられたコミュニティガーデンと、各施設（図書館や美術館など）をつなぐように設置します。また、レンタルサイクルポートをコミュニティガーデン内や、サイクリングロード上に設けることで、近隣住民だけでなく、東静岡地区外から訪れた人々が気軽に利用できるよう計画します。

※視点番号（募集要項P4より）：①②③④

コミュニティガーデンとサイクリングロードの発展イメージ



コミュニティガーデンの活用イメージ



ノマド学習からはじまる若者の関わりしろ

イメージ図（ChatGPT）



提案内容

学生が留まる場所を作ること、 東静岡を「居場所」にする

新図書館内に学生が電源とWi-Fiを自由に利用しながら作業できるスペースを立ち上げ、通学中に利用できるサードプレイスとして周辺大学学生の利用をねらいとする。一般的なコワーキングスペース的な利用を可能とする一方で主目的とはせず、他大学生や静岡在住の社会人と交流する機会を日常的に設ける。それにより、最終的には東静岡を「通り過ぎる場所」ではなく「在学中・卒業後の居場所」として見る学生を増やす。

期待する効果

「学生の居場所」として広く認知されるような場を現在の東静岡には無い規模でつくること、通学という形で地域に関わっている学生と、学生との関わりを作りたい企業・地域団体との繋がりやそこから端を発するイベントやプロジェクトの基盤とする。

電源やフリーWi-Fiなど、学生にとっての機能的な利用価値を強めることで図書館での学びや地域活動への意欲の如何をとわず多くの学生が集まる場として成立させる。日常的な利用を通して、まずは学生側が東静岡を「自分の居場所」として認識するきっかけとする。

現状地域に存在している「学生の関わりしろ」に関する情報の集積地としても機能することで、情報が学生層に伝わらない課題を解決する。

スペースの活用方法

- ・ 企業と学生のコラボプロジェクト
- ・ 学生が地域活動の発案側としてテーマを設定し外部にプレゼン、フィードバックを受ける機会を作る
- ・ インターンシップやイベント運営等、情報を自由に閲覧して発信元と関わりを得ることが可能なシステム
- ・ 就職活動中の大学生と地方在住の若手社会人による座談会
- ・ 学生プロジェクトを支援する企業スポンサーシップ
- ・ 地域イベントの企画運営ワークショップ
- ・ 図書館のリソースを活かしたビジネススキル講座

マークイズ静岡が寄与する東静岡のまちづくり

- ・東静岡が目指す「共創」をスピーディに促進するため既存施設の有効活用
- ・約380万人／年が来館する大型商業施設としての、情報発信と市民活動のハブ役割
- ・天候に左右されないイベント空間の提供

提案した視点番号：①・②・③・④



マークイズ静岡がお手伝いできること

- 地域のつながり強化をめざすイベント実施
- 「まちを楽しむ」小さな取り組みを受け止める空間の提供
 - ・自治体、公的機関との連携
 - ・学生が学んだことを披露する機会の提供
 - ・市民が「気軽に」「誰でも」活発に文化に触れる機会の提供
- 東静岡エリア情報（市内含む）横串しの情報発信拠点の設置
 - ・図書館・アリーナのオープン前（ティザー期）の告知協力及び機運の醸成協力
- 静岡市（行政・民間）のSDGs取組協力
- 自然災害時の協力

公共的空間への提案

- イルミネーション装飾・映えスポットの設置（ペDESTリアンデッキ他）
- プロジェクションマッピングの上映（マークイズ静岡・グランシップ他）
- クライミングウォールの設置、パルクール等のイベント実施（グランシップ・グランシップ公園）
- ファミリーが楽しめる要素の拡充（東静岡スマイル公園）
- 周辺移動を楽しむ移動手段と貸出拠点の整備（ハルクル・LUUP等のシェアサイクル・電動キックボード）

その他取り組み提案

- 世界に誇る地場産業「プラモデル」をBANDAI・タミヤ等と連携した魅力発信
- 健康増進を目的としたモールウォーキング（ウェルビーイング）
- 『子育てのしやすさ』視点で保育施設の設置や子育ての悩みを相談できるサービスの充実
- シルバー人材の積極的雇用
- 周辺施設利用時における駐車スペースの有効利用化

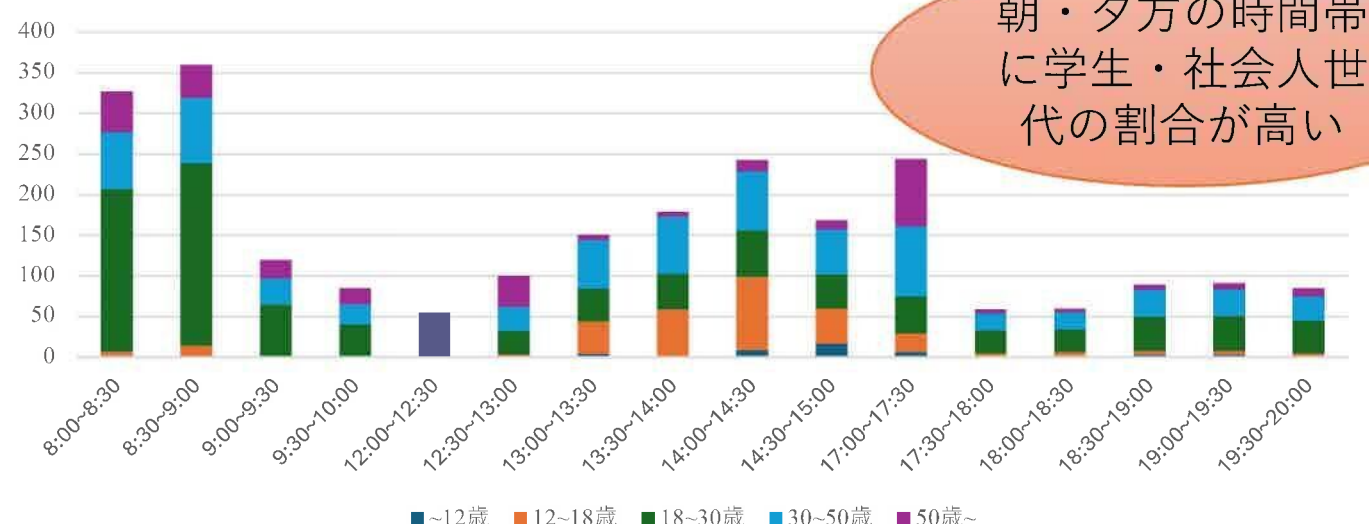
グランシップ前芝生公園を活用した「おかえりマルシェ」の開催 ～公園×商業施設の実現に向けた実証実験～

<対応する東静岡地区の街作りのテーマ>

②若者や子どもが夢や希望を持てるまちへの転換 ④多様な人々が訪れたくなる魅力的な空間づくり

1. 提案背景

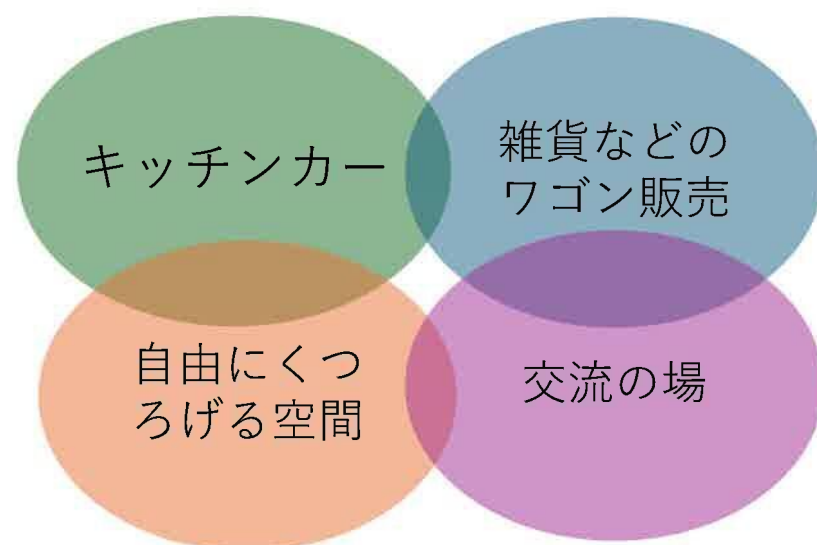
東静岡南口駅前 歩行量調査



通勤・通学で東静岡駅を利用する社会人・学生たちにとって
新たな目的を作ることが賑わい創出につながる

2. グランシップ前芝生公園「おかえりマルシェ」

1か月間、毎週金曜日の夕方から夜にかけて、学校や会社帰り、
お買い物帰りに東静岡駅を利用する人たちをターゲットにした
マルシェを週替わりで開催



3. アピールポイント

- ・滞在時間を増やすことで経済効果が得られる
- ・週替わりでお店を変えることにより、売上・客数を比較することで駅を利用する人たちのニーズを把握できる
- ・東静岡駅南口の集客性を測ることができる
- ・東静岡駅南口を「賑わう場所」というイメージ付けができる
- ・公園で開催することにより、多様な過ごし方ができる

4. 公園×商業施設の実現に向けた長期的な視点

屋上	公園
2階	商業施設
1階	飲食店

<特徴>

- ・開放的な空間
- ・静岡の食文化を発信
- ・人々にとってのサードプレイス

公共の場と商業を組み合わせ、性別・年齢にとらわれない新しい価値と体験を提供

長期的には、街の回遊性を高め、市外からの集客も見込めるような施設の実現を目指す

安心してボール遊びのできる公園にするための工夫

～東静岡駅付近の小学生へのアンケートをふまえて～

②【若者・子ども】若者や子どもが夢や希望を持てるまちへの転換

【アピールポイント】

東静岡駅付近の小学生1200人以上にアンケートを実施！小学生の「あったら嬉しい」を叶える遊び場

【提案する施設】

東静岡スマイル公園・東静岡1号調整池

池田東静岡公園・東静岡2号調整池

【特徴】

- ・ 大型の滑り台が人気
- ・ 幼児から小学生まで楽しめる遊具
- ・ 駅や商業施設が近く、便利な立地
- ・ 近隣の調整池は、大雨時以外は活用されていない

【アンケート結果】

ニーズ

サッカーやドッジボール等のボール遊びをしたい

課題

- ・ 思う存分ボール遊びができない
- ・ 衝突による怪我の危険性

200名以上の
小学生が回答



休日は混雑し、ボール遊びには危険が伴う

安心安全にボール遊びができる専用スペースが必要

【提案内容】

- ・ ボール遊び専用スペースの設置
(ネット等でスペースを区切る)
イメージ：MIYASHITA PARK屋上公園
- ・ 「1グループ15分」等の時間制限を設ける
- ・ 通常時の調整池を、公園以外の遊び場として活用



【設置場所】

スマイル公園グラウンド

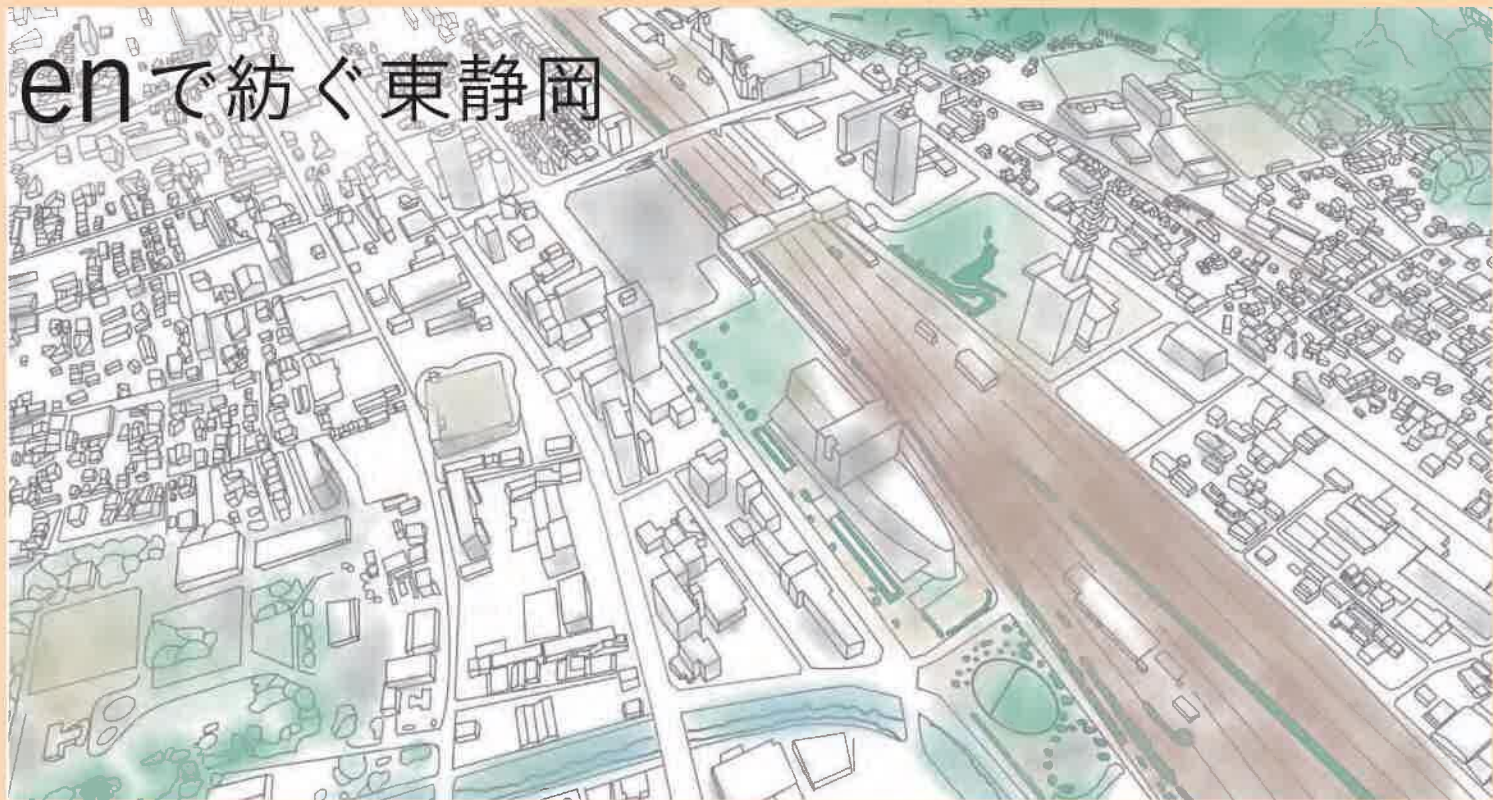
東静岡2号調整池



【期待できる効果】

- ・ ボール遊びによる怪我の危険性の減少
- ・ 安全に思う存分ボール遊びを楽しめる
- ・ 調整池の公共空間としての有効活用

enで紡ぐ東静岡



1 コンセプト

東静岡の都市空間の特徴

東静岡は幹線道路や鉄道により東西の動線が整備されており、公共交通機関や車でのアクセスがよい場所にスポーツジムや複数の公園や広場、グランシップ、マークイズ、温浴施設などがあり、運動やイベントなどに優れた空間が広がる。その一方、車社会であり、国道一号线沿いには自動車販売店も多くあり駐車場も多くある。また車通りも多いためウォークアブルとは言えない。

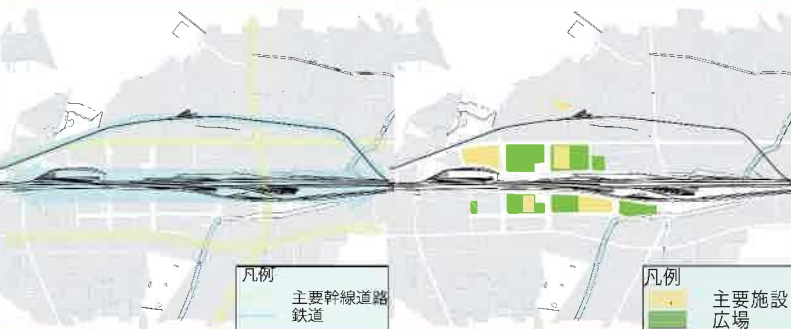
東静岡の魅力と課題

東静岡の魅力

- ・スポーツの関連する店舗・施設が多くある
- ・地区の主要な建物が駅周辺に集積している
- ・駅周辺に広場や公園が多く点在している
- ・学生や子ども連れの家族の姿が多くある
- ・歩道が広い（活用出来るような空間が多くある
- ・交通の便がいい
- ・自転車移動の住民が一定数いる

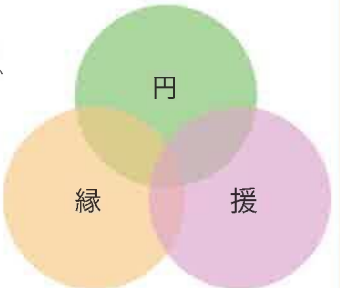
東静岡の課題

- ・飲み屋が少ない
- ・広場に人が少なく、活用があまりできてい
- ・滞留空間、植栽、日影が少ない
- ・改札出すぐの空間の利活用
- ・駐車場が多い（車社会）
- ・新幹線の騒音
- ・線路+車両基地、道路による南北の分断



en

enは東静岡の将来に必要な3つの“えん”の“緑・円・援”である。東静岡の魅力が大いに活かし、現状の課題だけでなく静岡景が抱える人口減少という課題を解決するためにグランシップやマークイズ等の既存の施設や新たに竣工予定のアリーナや図書館のハードだけでなく、“en”からつながるソフト面での取り組みが重要である。これから先30年の東静岡を考える際、“en”が1つずつ完成しこのベン図の中心が東静岡となる願いを込めた。



紡ぐ

紡ぐとは繊維を合わせて糸を作ることに準えて、何かを集めて一つのものを作る時の表現として用いられる言葉であり、3つの“en”やハード・ソフトが集まり東静岡を形成し、すみやすいまちづくりを目指す。

コンセプトの実現手法

	提案内容：コミュニティバス、モビリティハブ、ペDESTリアンデッキ 回遊性の向上と南北動線の強化を目的とし、多様な人々が訪れたいくなるような魅力的な空間づくり
	提案内容：エリマネ、図書館、グランシップ 東静岡の豊かな歴史・文化・自然から新たなコミュニケーションの場を創出し多様な年代が学ぶ場を作る
	提案内容：アリーナ、スポーツチームの誘致、宿場町 地域住民と来街者を繋げるきっかけとなり、東静岡に新たな観光資源となり、地元経済の発展を促す

2 エリア



A. 歴史ゾーン

宿場町だった歴史を踏襲し、国道1号沿いにホテルや飲食を集積することで来街者とまちを繋ぐ。また、飲食店を多く設けることで、来街者の拠点を作るともに、かつての賑わいを蘇らせる。

B. スポーツゾーン

現在の清水区にある清水エスパルスのクラブハウスを東静岡駅前に移転させることで、周辺住民の方はもちろん、全国のサポーターが集まる「スポーツの拠点」をつくる。さらに、アリーナの横には、ペDESTリアンデッキ静岡の事務所及び選手舎を向け、「スポーツの拠点」をつくる。

C. 文化ゾーン

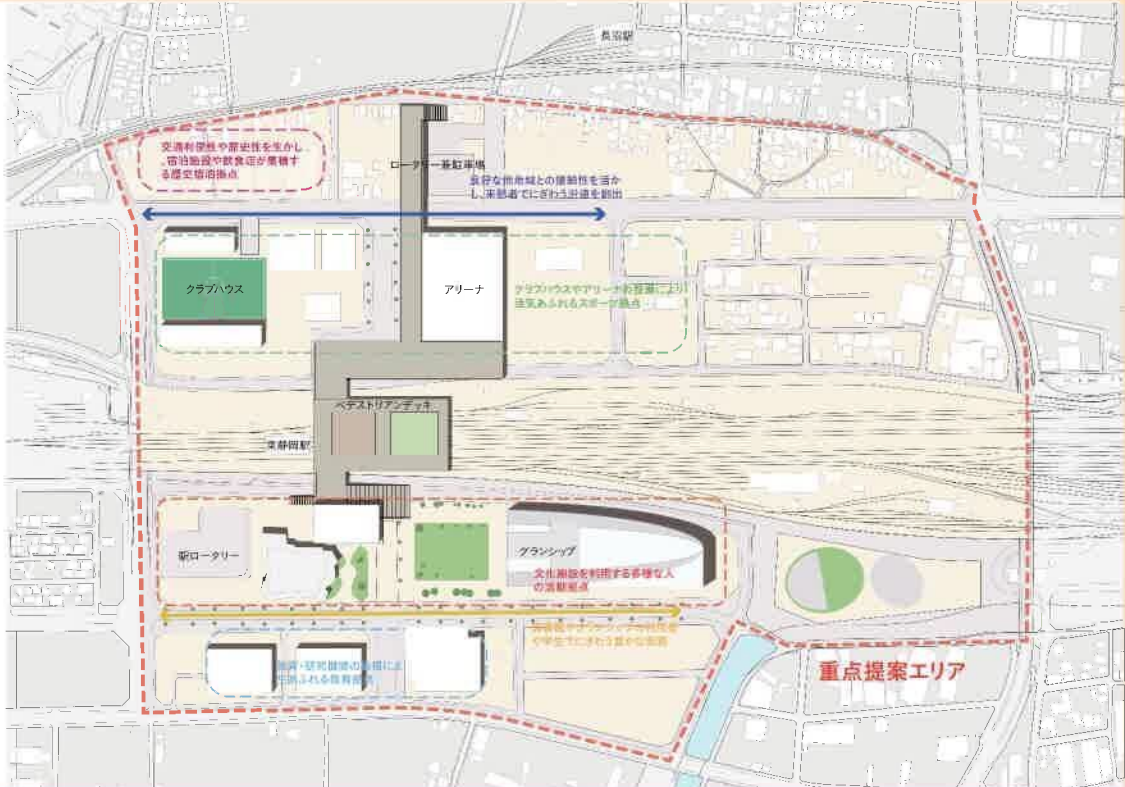
新県立図書館やグランシップなどの文化施設を集積させ、その付近には自然豊かなオープンスペースを点状にすることで、人々の交流と憩いの場をつくる。

D. 教育ゾーン

オフィス及び大学などの教育施設を集約し、食・遊・憩などの多彩な機能を有するミクストユースをつくる。ワーカーや学生が増えることで、多様な文化やイノベーションの促進及び地域経済やコミュニティの活性化が見込まれ、その結果まちの魅力の向上が期待できる。

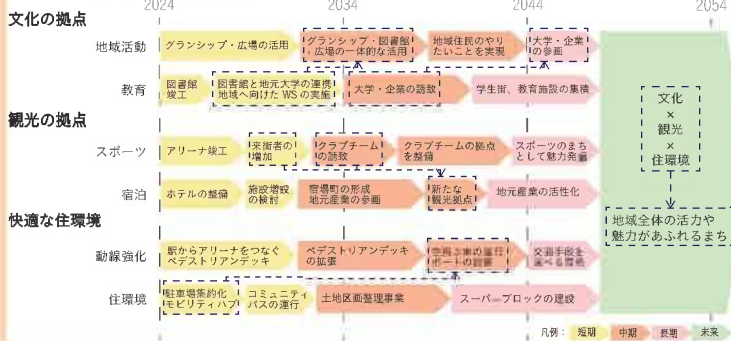
E. スーパーブロックゾーン

通過交通や車社会からの脱却を目指し、リンク&プレイス理論を用いて道路の特性を把握したうえで、道路の付け替えを行う。その際住宅街はプレイス機能を持たせ、スーパーブロックを計画し、住みやすいまちを実現する。



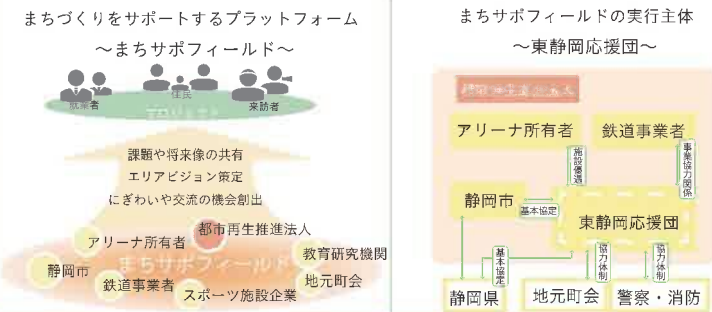
3 事業スケジュール

文化・観光の新たな拠点であるとともに、快適な住環境を整備し、地域住民から来街者まで心地よいと感じる空間を提供。最終的には、文化・スポーツ・住環境が連携をとり、地域全体の活力や魅力があふれるまちを目指す。



enを紡ぐ仕組みの構築

駅周辺事業者や市民や来訪者の活力を活かし、東静岡らしいまちづくりを推進するため、多様なステークホルダーと連携する①プラットフォーム②エリアマネジメント団体を組織。協議により、東静岡に根付く人々の想いを共有し、緑をはぐくむ。



4 提案

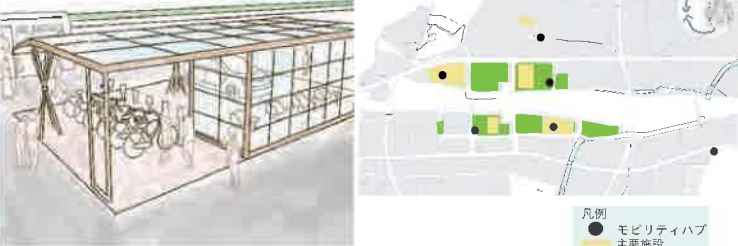
①富士見デッキ
駅から街へ向かう東静岡の文化・スポーツの拠点となり、新たに竣工予定のアリーナや図書館の他に長沼駅までを繋ぐ新たな軸線を形成する。駅周辺の通過交通に対する歩行者の安全性の確保とともに、駅周辺の主要施設同士の動線となり、防災拠点としての役割も担うことができる。将来的には南北のペDESTリアンデッキの延伸や、駅前の滞留空間・にぎわいの創出が期待される。

③図書館
若者や子どもを中心とした図書館活動を広場へ展開することで、地域全体に本や学びの機会を提供し、交流を促進することができる。具体的には、移動式図書館を活用し、広場で「書庫図書」や「紙芝居」、「読み聞かせ」を行うことで、誰もが気軽に本と触れ合える場を創出する。自然観察と読書を組み合わせたワークショップでは、自然に関する書籍を読み、実際に自然を観察し、それを日記や絵にまとめることで、体験を通じた学びを深める。これらの活動を通じ、図書館は地域社会における学びと交流の場としての役割を上げ、若者や子どもたちが主体的に参加し成長できる場を提供する。

②
東静岡駅周辺エリアから数キロ離れた位置には、いくつかの大学やスポーツチームが拠点を置いている。大学は東静岡駅南口付近のビルに、スポーツチームは近隣のクラブハウスなどの拠点を置くことで、若年層の人口流出を防ぐとともに、常設のグッズストアなどを設置しスポーツ目的の来街者を引き込み、観光・商業の面で街の活性化を促す。

④グランシップ
グランシップ前の豊かな広場と歩道幅員を活かし、多様な交流空間を創出する。グランシップという文化の拠点であり集客を見込めることから地元住民の居場所作りや活動をする場として、マルシェでのお茶や静岡おでんなどの地元の名産品やハンドメイドの販売や、屋外映画館などファミリー向けのイベントを開催し、在住者だけでなく、外から移住してもらうキッカケとなる機会を多く創出する。

⑤モビリティハブ



多様なマイクロモビリティを配列し、車通りを減らすだけでなく、車を持たない学生や来街者のためのハブを複数備えることで東静岡の環境負担を減らすとともに、利便性が増し、経済を活性化させることに繋ぐ。東静岡の課題である国道の交通量や駐車場の多いという点の改善や未来の交通手段への対応へのシフトが必要であるため、モビリティハブを整備する。

⑥スーパーブロックと駐車場整備

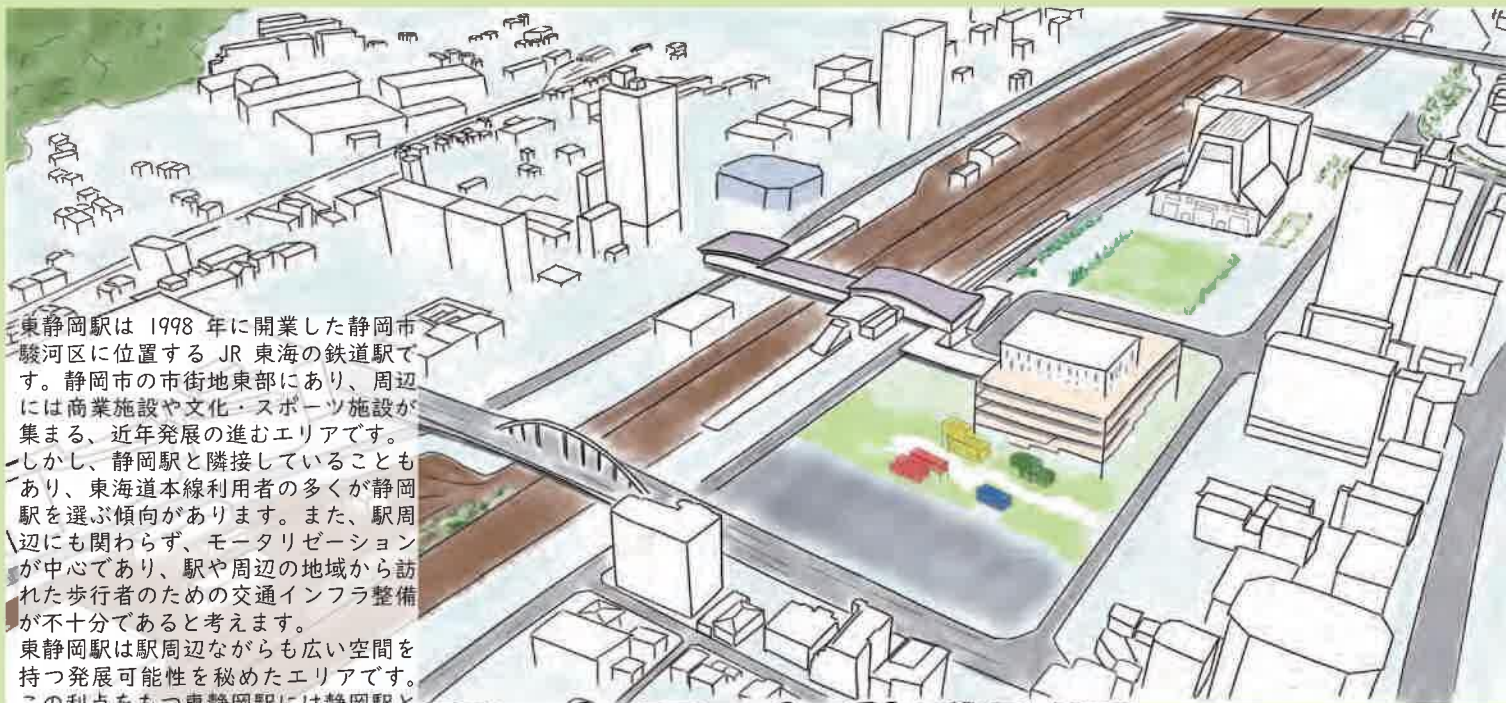


長期的な提案として都市計画道路制度を活用した広域なゾーニングである道路付け替えを提案する。「リンク&プレイス理論」を用いて道路空間を評価し、通過交通と歩行者優先道路を分けることで幹線道路以外の駅周辺道路の自動車交通量を減少させ、歩行者量を増やすことで東静岡駅周辺エリアから活性化の輪を広げる役目を果たす。

⑦宿場町

マークイズ西側に東海道の府中宿という宿場町があり、スポーツ観戦等で訪れた観光客の宿泊先としての役割を担う。現状の東静岡駅周辺の課題として、宿泊施設の数が少ないことに加え、東静岡は東京や名古屋に日帰りできる立地にあるため、この街に留まってもらうための施設として宿場町を建設する。東静岡駅北側は来街者のための施設が多、国道沿いという好立地であることから、電車・来た人だけでなく車でも来た人にも幅広く対応している。

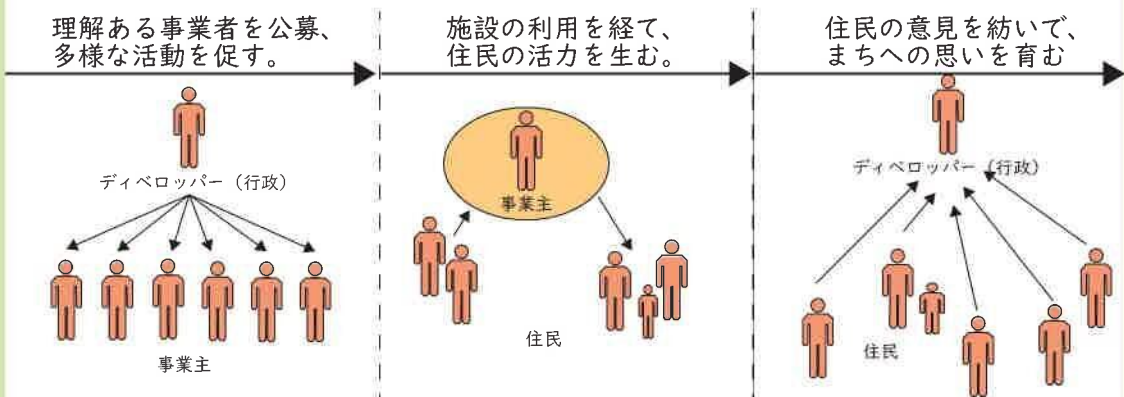




東静岡駅は 1998 年に開業した静岡市駿河区に位置する JR 東海の鉄道駅です。静岡市の市街地東部にあり、周辺には商業施設や文化・スポーツ施設が集まる、近年発展の進むエリアです。しかし、静岡駅と隣接していることもあり、東海道本線利用者の多くが静岡駅を選ぶ傾向があります。また、駅周辺にも関わらず、モータリゼーションが中心であり、駅や周辺の地域から訪れた歩行者のための交通インフラ整備が不十分であると考えます。東静岡駅は駅周辺ながらも広い空間を持つ発展可能性を秘めたエリアです。この利点をもつ東静岡駅には静岡駅とは違った魅力を持つまちづくりが必要です。そのためのキーワードは歩きたくなる駅です。（視点番号①～④）

まぐまぐ東静岡

SCHEME



ディベロッパー（行政）がテリトリーに出店もしくは、ワークショップを目的として、土地使用料の低減などのメリットを報酬として公募し、活動を増やす。テリトリーを訪れることで経済活動、文化活動を活性化、その人だけの居場所を見つけることを目的とする。利用者からの改善に向けての意欲増進に繋がればなお良い。

施設配置図



ISSUES

- ・静岡駅への人の密集化
- ・若者が自由に集まれるコミュニティスペースが少ない
- ・道路が整備されているが、車両の交通量が多く、通学路の不安全
- ・駅周辺にも関わらず、空き地として放置されている部分がある
- ・自転車、バスなどの2次交通がスムーズでない
- ・地域間の不均衡



ゆったりと時間を過ごすことができるカフェの空間が屋外まで広がっている。コンテナ同士が干渉し合い、従来の箱型に施設が収まった個々の分断された場所ではなく、機能が箱型に収まらない。鮮やかな色合いのコンテナが人々の興味を引く。



アリーナの前にサッカーコート进行。気軽に誰でもスポーツに触れられる機会をつくる。コンテナ内からも観戦できる。アリーナだけに収まらないスポーツの空間。



商業的な要素を持ち、一つ一つの広すぎないコンテナが個人に居心地の良い空間として提供される。絵本が置かれたり、小物が販売されたり、ふらっと立ち寄れる場所。



-アリーナ、図書館が建設された後、外部から訪れた観光客などによる歩行者の予想される主な動線
-駐車場や空地を新たな施設、空間であるにぎわいの場に変化させたときに予想される歩行者の動線

現在、東静岡駅周辺に図書館とアリーナ整備が計画されている。他にも、現在建っているマークイズ静岡やグランシップのような楽しめる施設がいくつか存在する。しかし、施設が個別で存在し、まち全体として孤立しあっているように感じる。施設をつなぐ道は広いという利点があるにもかかわらず、車社会のため、目的の施設に行った後は素通りしてしまう。そこで、都市をつなげ、駅中心地としてにぎわいとくつろぎを提供する自然空間が必要だと考えた。具体的に、主に駐車場や空き地を利用して、新たな施設、空間を創り出す。駅周辺にも関わらず、駐車場の割合が多いため、駐車場を減らし、歩くことを優先させる。これにより、アリーナに訪れた人、図書館に訪れた人が、そこで終わり、駅に戻るのではなく、訪れた人を止め、ここに寄ってみたい、気になるから立ち寄ってみようといった空間が生まれ、より外部からの人の滞在時間を増やしていく狙いである。

・動線計画

東静岡駅周辺の建物が多く密集しない、見渡しの良い利点を無くさないようなさまざまな施設を設置することで、ふと滞在してみたくなるような空間を散りばめることで、歩行者の動線を増やす。

・新たな空間例



Next 東静岡

～創る・継げる・結わえる街～

新たにアリーナと図書館が新設することで、さらに交通渋滞加速することに対する地域住民の不安の声が上がっている。

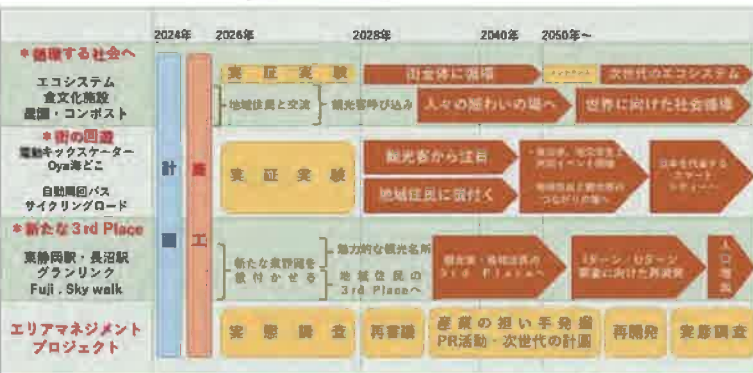
一方で観光客が増え、来訪者や地域住民の活動域が広がり、経済効果を生み出すことも考えられる。そこで、人々と車両の動線を明確に分け、混雑緩和を促すと共に、東静岡のPRとして、スポーツ、アート、食を活かした文化に関連する集客施設を設ける。また、将来的にIターン、Uターンによる人口増加を促すために、街の各所に幅広い年代層が共存できる交流の場、つまりサードプレイスを提案する。

提案

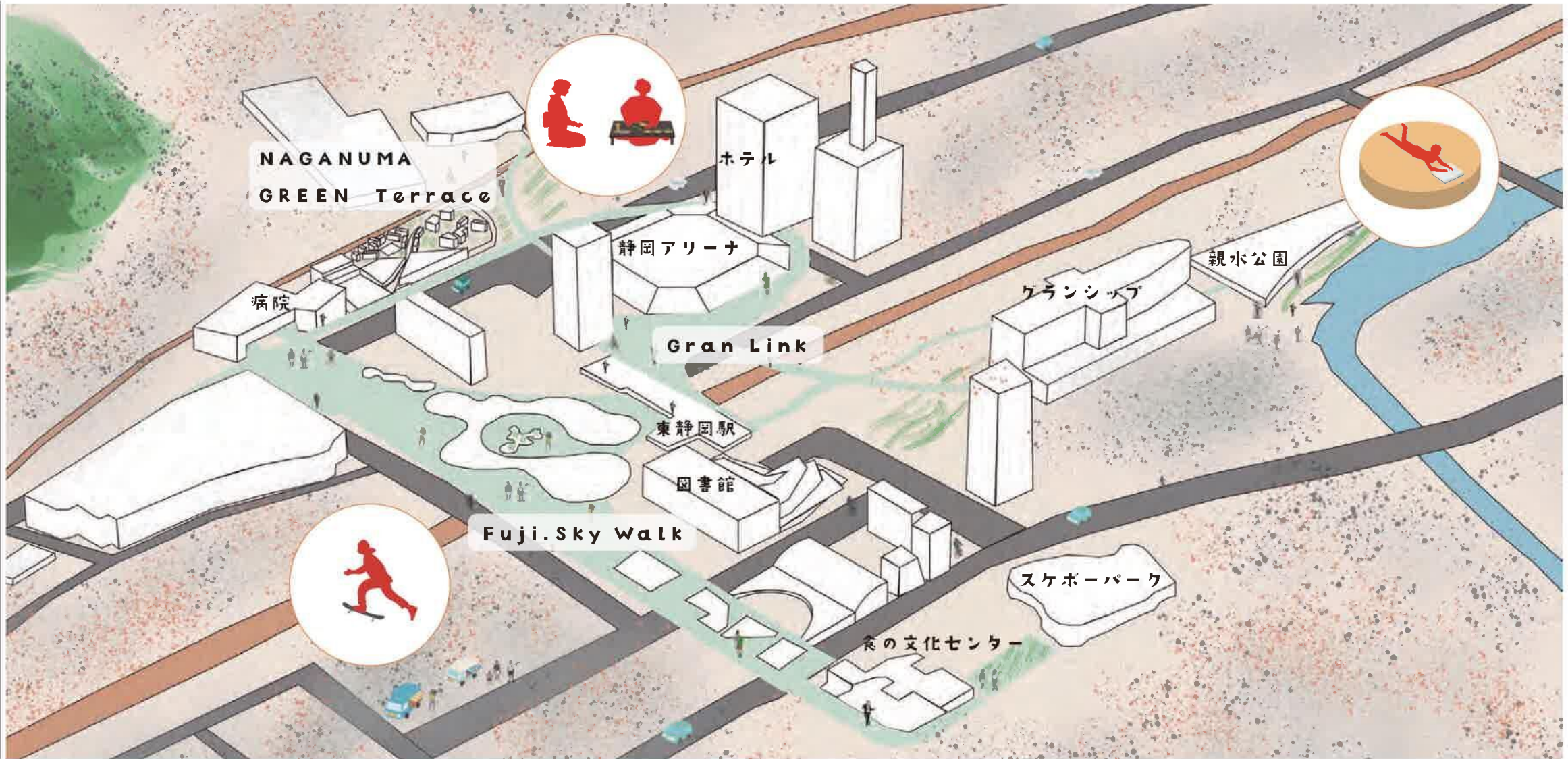
- ・歩車分離で、優れた回遊性のペDESTリアンデッキ
- ・川を流れるモビリティで交流空間の創生
- ・次世代のスマートシティの構築
- ・日本を代表するスポーツの発信地
- ・東静岡ならではの食文化を全国に発信

エリアごとの整備方針

- ①文化とスポーツを結ぶデッキ
空間の遮断となっていた緑地、デッキを設置することにより各エリアの連続性を実現。
- ②医療者判断
高所を結ぶことで災害時にデッキにトリップ場所を設けることで災害時の対応を容易にする。
- ③親水公園との関わり
河川を観光、物流の場として水辺空間を創出し、街へ。
- ④医療施設を身近に
高規格道路をデッキで架け渡し、医療施設と近接させる。
- ⑤日本最大級のデッキをサードプレイスへ
人な流れが多いデッキに特産品を陳列する場。体験できる草花や定置網のような魅力的な施設の設置で人々が集まりたい空間へ。
- ⑥新たな街の中心地
新たな街のシンボルとなるアリーナ。ここから街の発展が期待される。
- ⑦災害対策の検討
災害時の避難経路を確保し、災害時には避難場所への誘導を行う。
- ⑧親水空間を災害時にも活用
河川を物流や人々の避難経路として利用。
- ⑨動線の三層化
歩行者、自転車、車両の動線を分離することでエリア間の移動をスムーズにします。



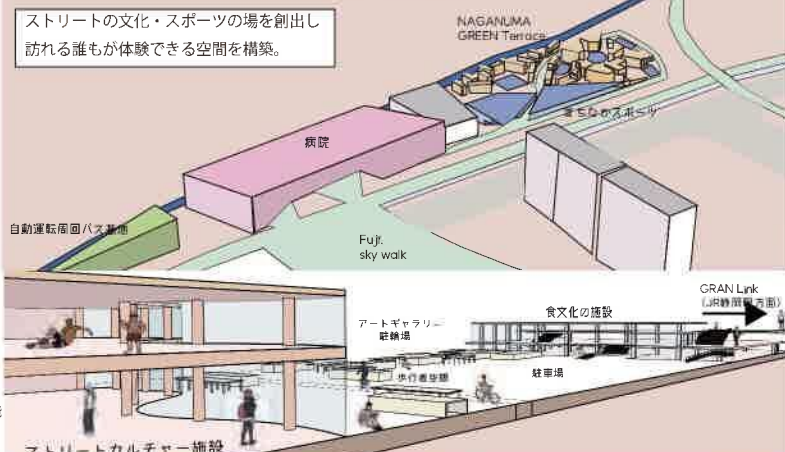
交通手段の多様化とステーション分布



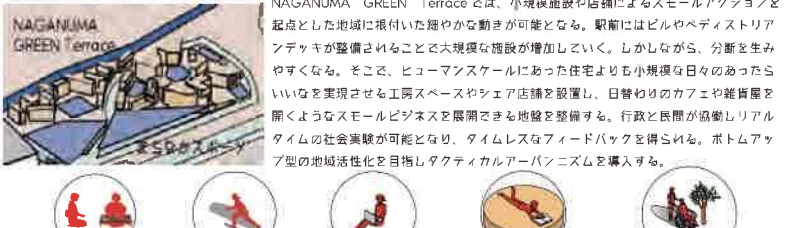
誰もが移動しやすいまちづくり



文化・スポーツの拠点としての新たな価値づくり



若者や子どもが夢や希望を持てるまちへの転換



また、NAGANUMA GREEN Terrace内にはスポーツ施設を併設し、日々の運動を行うだけでなく、人々と交流することによるウェルビーイングを目指し、目的型と交流型を兼ねたワードプレイスの創出への寄与が見込まれる。施設に機能を詰め込むのではなく、まちに溢れさせることで、活気が波及することが期待される。

循環型スマートシティ、東静岡へ



東静岡駅前巨大デッキ

コンセプト

現在、東館岡は、東館岡駅とグランシップが中心となり、子供連れの家族から学生、社会人まで様々な人が利用している。

その上は、室上山がよく見えるスポットがあったり、東御園駅を通過、停車する電車を見たりすることができる。しかも、東御園駅から市川まで、北口を利用する際には、道筋が長く、距離と時間が増えてしまう。ほかにも、同路一歩を横断しようとする、借手時間が長いことや、北口とグランシアタの間を移動しようとすると、未開通駅を経由し、急ぎ足で移動できないなど様々な問題を抱えている。

さらにアリーナや新県立図書館の建設により、東野国蔵が中心となり、さらに多くの仲間や主が密着することが考えられる。

また、マリナー予定地は元々緑豊かな公園であったため、建設されると緑や外に出て遊ぶ
ベースが制限されるだろう。

そこで駅は、スケートボードやBMX、バスケットコート等を配置し、誰でも気軽に運動ができ、富士山もよく見えるような、東静岡駅に直接つながる巨大デッキを建設する。

これは、アリーナでイベントが開催されるときは、主として移動手段として、開催されていないときは、緑豊かな公園として、地域住民のみならず、多くの人が利用されることが考えられる。

また、交通圏も増えることから、駅北口を中心に道を三車線ずつにし、アリーナを利用する人が効率よく移動できるようにする。デマキを境に車両と歩

行者の移動手段を分けることで、事故や渋滞を簡化することができ、国道一帯線を簡断するまで安全に移動できるよう、

大きな歩道橋も設けた。
誰もが安心して安全に移動

1. やすく築けるような
造りを提案する。

スケートボード & BMX ができる公園

オリンピックや世界大会にて多くの日本人選手が活躍するスケートボード。最近でも実施できるような場所を設けることで、より盛り上がるのではないかと考える。

バスケットコートのある公園

バスケットコートや、ランニングコース、内側に自由に使用することが出来る運動場を配置することで、より多くの人が気軽に運動することができる。

富士山が見えるデツキ

北側を見ると、富士山がきれいに見えることから、富士山をデックのどの位置からでも見ることができるよう、四方形でなく斜めになるようにした。また、スカソの売店や、一面の芝生を配置することで、家族連れや様々な人が食事やピクニックをすることができるようにした。

設計段階1 (設計開始～5年)

新幹線と在来線の線路の間にある空間をうまく利用し、省
みがあるよう設計。地面自体はコンクリートで敷き詰める。

設計段階2（5年～10年）

官公団を繰取り、官営以外の地面全体を足元屋にコンクリート（スラブ・ウォーク）埋合物中に含まれるゴムチップ量が増えたため、足腰や膝への負担を減らすことができる。）を使用。

設計年限3 (10年~15年)

植え込みを苗の状態のものを植える。各公園に生や運動場、滑の砂、スケートボードの地面を貼る。

設計段階4 (15年~)

フリーアの建設が完了し、草刈の成育とともに人が増え、フリーアのイベント時には移動手段として、イベントがなくても公園として賑わう。

東靜岡駅と国道一号線横断を結ぶ歩道橋

デモの下になるべく人が入ないようにするために、玉造一帯を直接閉鎖することができるような歩道橋を設置する。利用者は、東横線周辺にある学校の生徒や、静岡鉄道の大浜駅へ移動する人が見込まれる。歩道橋には、屋根を付けることで雨の日にも安全に園遊一帯の信号機の待ち時間を解消することができると。

२०३३३३

アリナ